

サモア人の健康のために必要なことは何だろう？

氏 名	酒井 智朗	学 校 名	石川県立金沢泉丘高等学校		
担当教科	保健体育	実践教科	保健		
時 間 数	全 4 時間	対象学年	1 年生	人 数	40 名

実施概要

01 | 単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

サモアの活動報告を通して、異文化理解を深めるとともに、サモア人の健康のために必要な支援は何かを多面的に考える。

02 | 単元の評価 規 準

(ア) 関心・意欲・態度	サモアの文化や習慣について関心を持ち、サモア人が健康になるために何をすべきか積極的に話し合っている。
(イ) 思考・判断・表現	サモアの健康課題を捉え、自分の言葉で表現している。
(ウ) 技能	
(エ) 知識・理解	健康の保持増進には生活習慣が大切であること、日本とは異なる価値観や考え方があることを理解し、可能な対策を発言したり、記述したりしている。

03 | 単元設定の理由

【生徒観】

男子 21 名、女子 19 名の計 40 名のクラスである。クラスの中には来年度、本校のSGコースを志望している生徒が数名おり、グローバル課題に関心のある生徒は少なくない。また、7 月にはSDGsの講演会を受講しており、世界に対しての課題意識やSDGsへの関心が高い。夏休み中には 2 名の生徒が海外でホームステイを経験するなど世界各国への関心も高い。1 学期の保健では、食事や運動と健康についての学習をしており、健康になるために必要な知識は習得している。

【教材観】

サモアと聞いてどこにあるのか、どんな国かを答えられる生徒はいなかった。そのため、写真や動画を多く用いてサモアをイメージしやすいように取り組みたい。サモアの大きな課題の一つに国民の肥満率が高いことがあげられる。単元を通して肥満に結びつくサモアの文化や習慣を理解させていきたい。また、肥満のような課題だけではなく、サモアと日本の違いやそれぞれの良いところを見つける活動を展開し、多様な価値観への理解につなげたい。

【指導観】

サモアについての紹介だけでなく、サモア人の健康に対して本当に必要な支援は何かを考えさせたい。運動をする、野菜を摂る、調理方法を変える等のような思考で終わらずに、継続的に健康を保つことが出来るアプローチまで考えさせたい。また、個人の考察で終わらずペアワークやグループワークを通して意見を共有させたい。生徒なりに必要な支援を考察する中で、支援の本当の意味を考え、将来何をすべきか考えさせたい。

04 | 展開計画（全 4 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	サモアが抱える非感染症問題について考える。（非感染症と健康）	・ 2 枚の写真（大きなサモア成人と痩せている子供）からサモアの抱える非感染症問題を考える。 ・ 全体の展開計画を説明する。	パワーポイント ワークシート
2	サモア紹介を行う。 （サモア紹介を通して異文化について理解する。）	・ SDG sの観点から海外研修の内容を写真や動画を用いて紹介する。 ・ 紹介を聞きながらサモアと日本の良いところや問題点をワークシートにまとめる。 ・ 次回の活動を意識させて聞かせる。	パワーポイント 研修中の写真や動画 ワークシート
3 本時	サモアの健康課題に対する支援について在り方を考える。	・ サモアの健康問題を解決するために必要な支援策を運動、食事、その他の視点から考察する。 ・ グループワークを行う。	パワーポイント ワークシート
4	振り返り・まとめ ・ 幸せについて考える。 ・ 本当に必要な支援とは何か？	・ 「努力して長生きする生き方」、「努力せずに好きなことをして早死にする生き方」どちらが幸せ？ ・ 「僕のお父さんはボランティアというやつに殺されました」を読み、前時に考えた支援は必要な支援かを再考する。	パワーポイント ワークシート

05 | 本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10 分)	・ 前時の復習を行う。 ・ 本時の流れを確認する。	・ 本時の流れを示し、1 時間の見通しを持たせる。 ・ サモアの健康課題について確認する。	パワーポイント ワークシート
展開 1 (25 分)	・ サモアに必要な支援を考える。 ・ 個人で考える。 ・ グループで共有し互いの案を検討する。 ・ グループの代表者が班から出たアイデアを全体に説明する。	・ 健康課題に焦点を当てて必要な支援策（食事、運動、その他の視点から）を個人で考えさせる。 ・ 支援について短期的、長期的な視点を意識させる。 ・ グループのアイデアを代表者に黒板に記入させる。	
展開2 (10 分)	・ 班で話し合い改めてサモアに必要な支援を考える。 ・ 代表者が改めてグループ内での意見を発表する。	・ 最もサモアに必要なと思った支援案をグループで決める。	
まとめ (5 分)	・ 本時の振り返りを行う。 ・ 改めて本時考えたことをワークシートに記述する。	・ 教員の考えた案を示す。 （ラジオダンス、給食制度の提案） ・ この授業で学んだことや考えたことをワークシートに記入させる。	

≫ 授業実践の様子



【写真 1】個人で思考する



【写真 2】グループで最善案を考える



【写真 3】黒板にグループの案を書き出す



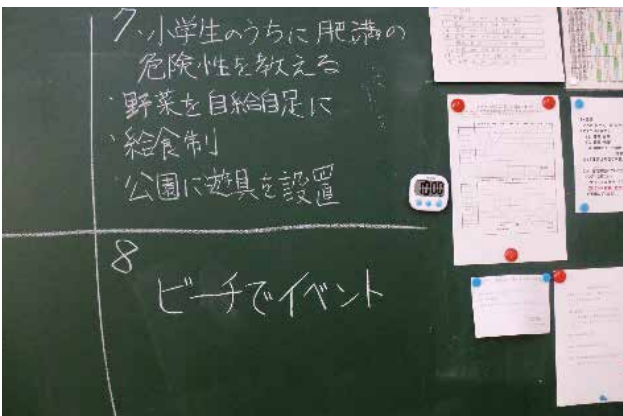
【写真 4】グループの意見を発表



【写真 5】各班の支援案①



【写真 6】各班の支援案②



【写真 7】各班の支援案③

06 | 本時の振り返り

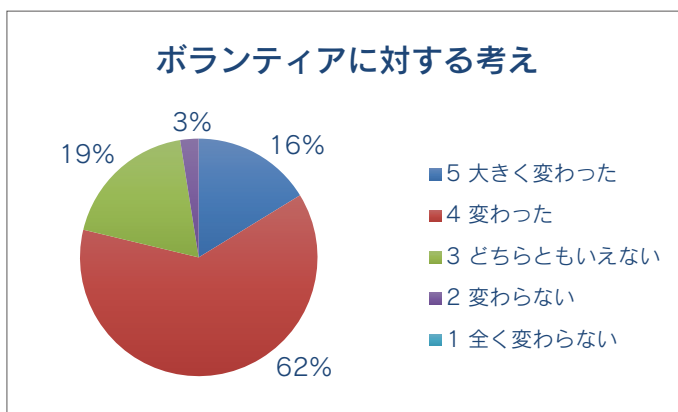
全4時間の3時間目である本時は、サモア人が健康になるために必要な支援策を考えた。生徒は非常に前向きに取り組み、私自身の想像を超えるクリエイティブな意見が多く出た。生徒の柔軟さに驚かされる時間となった。本時に向けて、2時間SDGsの視点から私が見てきたサモアについての紹介を行ってきたが、伝えたいことの半分も伝えられなかったと感じている。その中でもサモア人の文化や国民性を生徒自身で想像し、豊かな発想力から必要な支援策がどんどん出てきていた。これから高校を卒業し、世界へ羽ばたいていく生徒たちは、基礎の学力はもちろん必要であるが、正解のない答えを考えていく力は必要不可欠であると感じている。このまま自由な発想ができる大人になり、社会で活躍してほしいと願う。

07 | 単元を通した児童生徒の反応 / 変化

4時間の単元終了後に、事後アンケートを実施した。記入内容から、生徒の大きな変化として以下に示す3点があげられる。

- ①ボランティアの捉え方、考え方の変化
- ②自分自身の価値観の変化
- ③自分の幸せについて

まず「①ボランティアの捉え方、考え方の変化」について、本単元では3時間目にサモア人が健康になるための支援策を考えた。そして、4時間目に「ぼくのお父さんはボランティアというやつに殺されました」を読み、ボランティアの在り方について考えるという単元計画を実施した。この結果、先進国の立場から当たり前のように支援策を考えていた3時間目の自分に対して、4時間目に疑問が生まれることとなった。生徒の中にあるボランティア=良いことという概念が揺らぐきっかけができた。



そして、ボランティアの捉え方や考え方に変化が見られた。今回授業をした2つのクラスを対象に授業後の事後アンケートを行った結果、ボランティアに対する考えが「大きく変わった」、「変わった」が78%という結果であった。

以下は、生徒の感想を抜粋したものである。

- ボランティアが文化や生活を変えることは良いことだと考えていたが、発展途上国の伝統的な生活を壊してしまうこともあるので、違う面から捉えていく重要性に気づいた。
- ボランティアは先進国が発展途上国を支援する形だが、本当により良い関係を築くためには対等な立場で互いに寄り添う必要がある。また、すごく太っていても平均寿命は意外と長く驚いた。ボランティアが健康について指導しすぎると知識は増えるが、寿命が短くなりそうと思った。多面的に物事を見ていきたい。
- 自分は良いことをしているつもりでも違う人からすると悪いことに見えるかもしれない。これは、日常生活から言えるのではないかと思った。
- 世界には発展途上国が多く存在し、私たち日本の科学技術を伝えていくことの重要性を知った。でも、文化は違うので日本の考え方を押し付けず、その国の文化と調和してボランティアしなければならないと思った。

「②自分自身の価値観の変化」については、サモアという発展途上国の現状を知る中で、自身の生活が当たり前ではないという気づきが見られた。また、日本とは違う文化や国民性を知り、生徒自身の価値観の多様さが広がったと感じる。

以下は、生徒の感想を抜粋したものである。

- 日本ではありえないようなサモアの生活がとても楽しそうだし、行ってみたいと思った。
- サモアの人々は肥満であることを悪く思わず、裕福と感じていた。その土地によってものの考え方や見方が違うということが印象に残った。
- サモア人の幸せに満ちた暮らしが印象に残っている。インフラ整備は不十分で、人々の健康状態もあまり良くないけど、あれだけ幸せそうなら今のままでも良い気がした。
- 日本の常識ではありえないことだらけだった。サモアの文化や国民性、制度など知らないことばかりでとても驚いた。
- 発展途上国＝不幸と考えていた自分がいた。技術が進んでおらずかわいそうと思っていたが、その国にはその国の生き方、幸せ、価値観があり、全然かわいそうではないと思うようになった。

「③自分の幸せについて」は4時間目の最後に幸せについて考える時間を設定したことによる変化である。日本とサモアの平均寿命は約10年の差があり、サモアの食生活を例に「好きなことを我慢せずに10年早く死ぬ人生」と「好きなことを多少我慢して健康に10年長く生きていく人生」どちらが自分にとって幸せかを考えてみた。そして、「自分の幸せ指標はどのようなものか?」という問いも行った。今まで幸せについて考えたことがない生徒がほとんどであり、長生きだけが幸せではないし、人それぞれに幸せの価値観があるということへの気づきが見られた。

以下は、生徒の感想を抜粋したものである。

- 日本の幸せの形とサモアの幸せの形は違うし、さまざまな幸せの形があると思った。人によって何に対して幸せを感じるかは違うと気づいた。
- 何が幸せかは他人が決めることではないのだと思った。その人が幸せであるならば技術支援や改善も必要ないかなと思った。
- 私は好きなことだけをやるとつまらないと感じる。少し我慢することにより、より好きなことができる嬉しさが増えると思った。
- 日本のように物が揃い、不便なく暮らせることが幸せとは限らないと思うようになった。サモアには日本にはない裕福な部分がたくさんあると感じた。

単元を通して、生徒が自身の大きな価値観の変化を感じていた。今の当たり前が当たり前ではないことへの気づき。多面的に捉えていく重要性。答えのない自分自身の幸せ。普段の授業ではなかなかできない思考の連続であったと思う。これをきっかけにさらに価値観を広げてほしい。

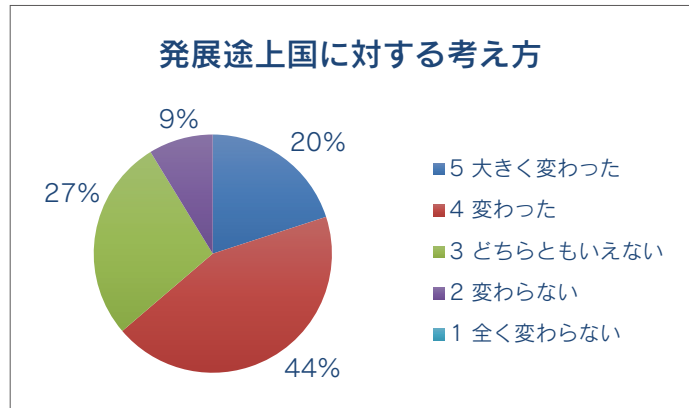
≫ 単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲

本単元では、教科書による保健の授業にはない生徒の柔軟な発想が生まれていた。それぞれの発想をもとに互いの意見をすり合わせていく姿や発表で出てきた意見を尊重する姿は普段の授業では見れない姿であった。グループワーク活動も非常に活発であり、生徒の主体的な取り組みが見られた。

≫ 途上国・異文化への意識の変容について

(授業前)

サモアと聞いてどこにあるのか、どんな国かを答えられる生徒はいなかった。途上国を訪問したことのある生徒はわずかであり、途上国の暮らしのイメージを明確に持てていなかった。「貧しい」「物が少ない」「インフラ整備がまだまだ整っていない」のような曖昧な意見を持つ生徒が多数であった。



(授業後)

事後アンケートにより発展途上国に対する考え方を調査したところ64%の生徒が「大きく変わった」、「変わった」と回答した。発展途上国は先進国と比較して様々な物がなく、発展していないことが不幸であると考えていた生徒が多かった。しかし、4時間を通して発展していないことと不幸は同じではないと気づく様子が見えた。先進国として発展途上国を下に捉えている自身の感覚に気づき、それはおかしい感覚であるという意見を持った生徒もいた。

08 | 自己評価

≫ 1. 苦勞した点

自分が海外研修を通して見てきた景色、感じた内容を4時間という少ない時間の中で生徒に還元することが非常に難しかった。サモアの背景をもとにして、健康になるための支援策を考える活動を取り入れたかったのだが、食事・運動以外の側面を生徒にうまく伝えることができたか分からない。肥満率が高いことの背景には、文化や国民性などを多面的に捉えて考える必要があり、適切に伝えることがとにかく難しかった。

≫ 2. 改善点

今後この活動をしていくにあたって、活動の1、2時間目にあたるサモア紹介で、ワークシートを工夫したいと思う。紹介された内容を、生徒が自分なりにまとめ、形として残っていくようにしたい。話のスピードが速かったこともあるが、今回作成したワークシートを上手に利用させることができなかった。生徒がまとめながら紹介を聞けるように工夫すれば、更に3時間目の活動が活発になったと考える。

≫ 3. 成果が出た点

生徒が異文化に興味を持ち、楽しみながら答えのない問いに挑戦できたことが最大の成果であると感じる。そして、この活動を通して、生徒自身の当たり前の価値観が実は当たり前ではないことに気づけたこと、今まで考えたこともないような自身の幸せについて考えることができたことはとても良かったと感じている。全てに答えはなく、自分の答えを真剣に考える姿が印象的であった。

≫ 4. 担当クラス以外での実践・報告について（内容・対象人数）

同学年他クラス（1クラス）で実践授業を4時間実施 対象人数：40人クラス

≫ 5. 備考（授業者による自由記述）

まず、このような素晴らしい経験を与えて頂いたことに感謝したい。この教師海外研修は自分自身の素晴らしい経験となった。特にホームステイは、現地の真の姿を知るいい機会であり、多くのことを肌で感じ、考える機会となった。

「ボランティア、教育、異文化、発展途上国、先進国、健康、幸せ」多くのことを考え、思考する刺激的な経験をさせて頂いた。これから出会う生徒には自分の話や姿を通して世界に興味を持ち、どんどん飛び出してほしいと願う。

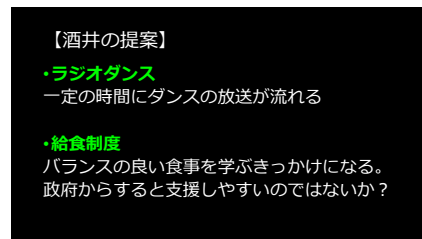
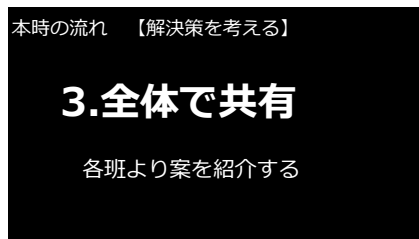
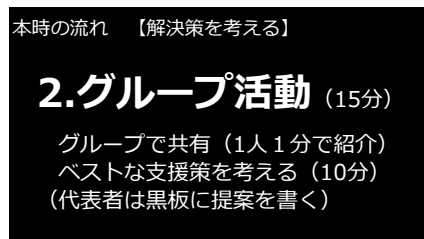
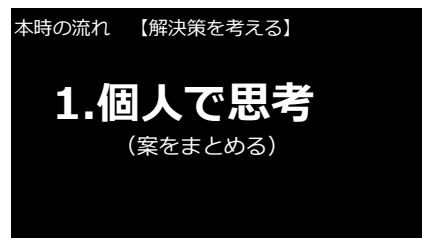
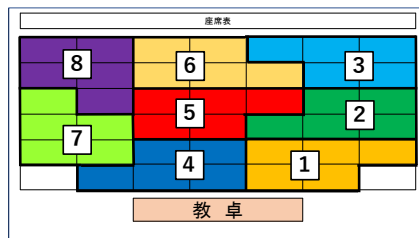
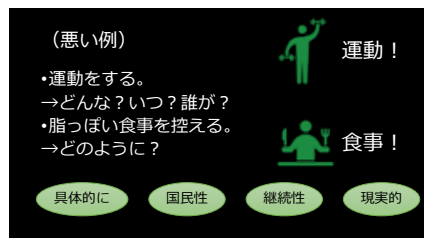
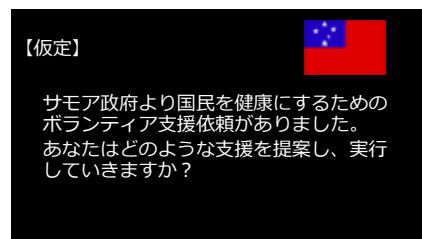
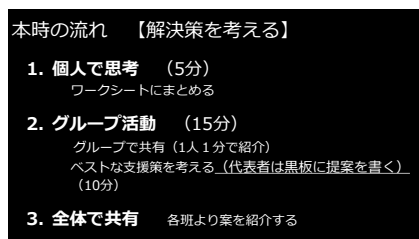
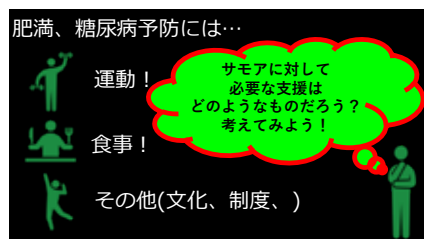
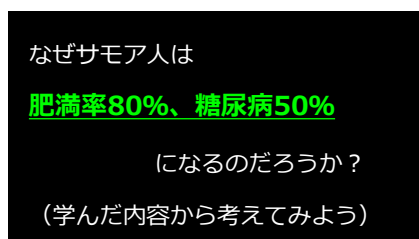
【参考資料】

宮崎大輔「ばくのお父さんはボランティアというやつに殺されました」

【添付資料】

- ・資料①：パワーポイント
- ・資料②：ワークシート①
- ・資料③：ワークシート②
- ・資料④：事後アンケート

【資料①】パワーポイント



【資料②】ワークシート①

【特別授業・国際理解】

H 番 氏名

サモア人の健康のために必要なことは何だろう？

○なぜサモア人は肥満率 80%、糖尿病罹患率 50%になるのだろうか？想像してみよう！

○サモアの紹介を聞きながら日本とサモアの良いところや問題点を探そう！

《良いところ探し》それぞれの国の良いと感じたところは？	
○日本	○サモア
《問題点》それぞれの国の問題点と感じたところは？	
○日本	○サモア

【資料③】ワークシート②

【特別授業・国際理解】

H 番 氏名

サモア人の健康のために必要なことは何だろう？

【原因を考える】（前時までの復習）

なぜサモア人は肥満率 80%、糖尿病罹患率 50%になるのだろうか？（学んだ内容から考えてみよう）

【仮定】サモア政府よりサモア国民を健康にするためのボランティア依頼がありました。

あなたはサモアに対してどのような支援を提案し、実行していきますか？

【解決策を考える】

食事

運動

その他

○サモア人が健康になるために必要な支援は何だろうか？

（具体的な提案をする。サモアの国民に合ったものか？ 継続性はあるか？ 現実的な提案か？）

×例：運動する。脂っぽい食事を控えさせる。

○私の提案（何個でも）

○グループで出た意見（何個でも）

○クラスで出た意見、良いと感じた提案

本時のまとめ・感想（考えたこと、感じたことをまとめよう）

【資料④】事後アンケート

【特別授業・国際理解】

H 番 氏名

事後調査アンケート

本調査は、統計結果を外部に公表することがあります。その際に皆さんの個人情報公表しません。
全4回の授業を踏まえて、以下の質問に答えてください。

(1) あなたのボランティアに対する考え方は変わりましたか？

- ⑤大きく変わった ④変わった ③どちらともいえない ②変わらない ①全く変わらない
⑤、④と答えた人は具体的にどのように変わりましたか？

(2) あなたはボランティアが必要だと思いますか？

- ① 必要だと思う ② 必要ないと思う
どうしてですか？

(3) あなたの発展途上国に対する考え方は変わりましたか？

- ⑤大きく変わった ④変わった ③どちらともいえない ②変わらない ①全く変わらない
⑤、④と答えた人は具体的にどのように変わりましたか？

(4) あなたはどちらの価値観が強いですか？

- ①好きなことをして早死にする人生 ②好きなことを多少我慢して長生きする人生
どうしてですか？

(5) あなたの幸せ指標はどのようなものですか？教えてください。

(5) 授業を通して最も印象に残っていることは何ですか？教えてください

≫ 1. 今回の研修参加に際し、特に主眼をおいた点

私は保健体育の教員なので、「健康」に主眼をおいて研修に参加した。事前に調べたところサモアの肥満率は 80%というデータがあり、どのような文化がこの数値に結びついているか興味があった。途上国の姿を実際に自らの目で確かめ、現状はどのようなものか、肥満に結びつく原因は何か、どのような支援が必要か、見極めることを目的に研修に参加した。

≫ 2. 視察を通して見つけた途上国の姿、疑問に思ったこと

サモアは私が想像していた以上に発展しており、空港やアピア市内は途上国という表現に違和感を覚える程であった。しかし、視察を通して途上国ならではの姿も見えてきた。その 1 つがごみ問題であった。今までのサモア文化に近代化された消費生活文化が入ったことで沢山のごみが生み出される様になり、それが大きな課題の一つとなっていた。ごみ処理施設では多くのごみが埋め立て処理されており、今後は小さな島国特有のごみ処理問題が浮き彫りになるという話を伺った。

また、実際に会おうサモア人はとても大きく、データ通りの肥満大国であった。この原因としては、1 日に何度も炭水化物と油もの中心の食事をしていることや運動する習慣がないこと、さらに野菜が市場に非常に少なく、加えてどの野菜も高価なため文化の中に根付いていないことがあげられる。また、正しい栄養や健康の知識などが不足しており途上国ならではの問題であると感じた。

このような途上国の姿を視察し、大きな疑問が 2 つある。1 つ目は「JICAがサモアに支援している分野が、本当にこの国にとって必要な支援であるのか」という疑問である。教育分野の支援よりもごみ等の環境問題や防災についての支援を優先すべきだと感じた。まずこの分野を優先的に支援しないと、日本で公害問題が起きたように同様の環境問題を途上国でも繰り返してしまうと思った。

2 つ目として、サモア人の幸せの感覚は日本人とは異なるかもしれないという疑問である。肥満について日本では健康に悪く、長生きするために改善するように勧めらる。しかし、運動や食事制限をして健康となり長生きすることがサモアの幸せの価値観と合うか疑問に思った。死を恐れず、今の幸せを優先するようなサモア人の文化にそもそも健康が必要なのか疑問が残った。

≫ 3. 研修を通して、自身の成長に繋がったこと、子供達に特に伝えたいこと

研修を通して様々な経験をさせて頂き、自らの価値観が大きく広がったと感じている。サモア人の暖かな人柄、誰に対しても挨拶を行うような姿勢、全てが自給自足で成り立つ文化、壁のない家にホームステイ等、日本ではできない経験を通して自分の価値観を考え直すきっかけとなった。今までの自分は、狭い日本の価値観で生きていた。日本のように物が溢れていなくても幸せに生きることができると気づかされた。

そのため、子供達にはとにかく自分で多くの国を訪れ、自分でその国の価値観に触れてほしい。百聞は一見に如かずということをこの研修を通して私は肌で感じた。早く日本と違う文化に触れて、様々なことを感じてほしいと願う。

≫ 4. 今年度だけでなく、今後の国際理解教育活動への活用について（構想）

今後、自分ができることはこれから出会う子供たちに対して海外に興味を持たせることだと考える。保健は世界に関連させた授業展開が可能な教科であるため、保健の分野から世界に目を向けさせたい。このような授業を通して、多くの価値観があることや日本の良さに改めて気づかせたい。

≫ 5. 研修に関する全般的な所感

今回の研修では「JICA ボランティア」の是非についてと「グローバル人材」とはどのような人材なのかについて考える機会があり、非常に印象に残っている。

当初、私は先進国が途上国を支援することは必要なことだと考えていた。しかし、JICA ボランティアの視察を通してサモアの想像以上の発展、日本からの支援慣れしている姿、今のままでも幸せそうに生きている人々を肌で感じた。日本人が支援するよりもサモアから日本人が学んでいることの方が多い印象を受けた。そのため、ボランティアは必要ないと感じることが多くあった。しかし、このサモアに対して日本ができる本当に必要な支援もきっとあるはずである。まだもやもやしている部分が多くあるが、まずは環境と医療の分野を重点的に支援すべきではないかと考えた。マズローの5段階欲求の下の部分である生理的欲求や安全欲求の支援までは先進国が積極的に関わるべきだと感じた。しかし、それ以上の部分については時間がかかっても国の力で整えていかなければ、ボランティア慣れのような状態に陥る可能性が高くなる。

また、「グローバル人材」については、相手を理解できること、自分に芯を持ち突破していく力のようなものが大切だと感じた。こちらの善意も相手が必要としていなければ意味をなしていない。まずは相手の文化や要求を理解し、そのうえで自分にも芯を持ち接していくことが「グローバル人材」に必要なことではないだろうか。

≫ 6. JICA に対する要望・提言

JICA ボランティアは青少年育成や国際交流において非常に素晴らしいものだと思う。すぐに見える結果は出ないかもしれないが、巡り巡って日本のためになる素晴らしい活動だと感じた。

サモア滞在中に Facebook を扱うサモア人を多く見た。その姿から世界中で繋がることのできる SNS の力、偉大さを知った。SNS を更に活用して日本国内や海外に向けて情報発信を強化していくことで、国際理解教育の普及に繋がっていくと感じた。

≫ 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス

毎日行われる全体の振り返り会が本当に深く考えるきっかけとなった。その後に研修参加者で自主的に行っていた1日を振り返る時間も非常に良かった。今後の参加者においても是非お勧めしたい。

国際協調と国際経済機関

氏 名	山崎 里美	学 校 名	富山県立富山南高等学校		
担当教科	地歴公民	実践教科	政治経済		
時 間 数	4	対象学年	2年生	人 数	41名

実施概要

01 | 単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

グローバル社会で「生きる」とは？

- ・サモアを通して異文化理解を深め、国際社会の中で生きる日本と自分の役割について考える。
- ・JICAの活動とサモアの暮らしから「幸せ」の価値や支援のあり方について考える。

02 | 単元の評価 規 準

（ア）関心・意欲・態度	現代の課題と向き合い、国際理解に努めようとしている。
（イ）思考・判断・表現	課題から自分の意見を考え、それを伝えようとしている。
（ウ）技能	必要な情報を取捨選択し、立論することができる。
（エ）知識・理解	それぞれの国家の特性を理解し、テーマについて多面的に考えることができる。

03 | 単元設定の理由

（1）生徒観

男子6名、女子35名の普通科（国際コース）のクラスである。このクラスには異文化理解の授業があり、将来英語を使って活躍したいと考える生徒が数多くいる。そのため海外に対する興味関心が高い。

その一方で、自分の考えを発信することは苦手、という生徒もいるように感じる。生徒は、答えのある問いに対しては、一生懸命答えを探す努力をしてくれるが、自分の考えをまとめ意見する、ということになると苦戦しがちである。

（2）教材観

日本と世界はどのように繋がっているか、理解してもらうため、グローバル化という言葉を出すだけでなく、写真や動画を使い出来るだけ具体的なイメージを作り出す。そして、写真や動画からその事象の背景を考えさせ、「繋がり」を意識した授業を展開していきたい。また、カルチャーショックゲームから異文化理解を図りたい。クラス内で交流を深めながら、価値観や文化の違いをこのゲームを通し実感させたい。最終的には「グローバル化」が進む中で自分はどうあるべきかを考えさせたい。未来へ向けたビジョンも持たせたい。

（3）指導観

今回の単元を通して、現状と向き合う力、考え続ける力を生徒に身につけさせたい。生徒は「国際協力」は大切なことであると感じていながらもなぜ必要なのかということまでは考えられていない。「国際協力」という軸をベースとし、過去、現在、未来へと焦点をあてていくが、自分はこうあるべきだというビジョンを最後は持ってもらいたい。

具体的な事象や例、データを示すときは、生徒1人ひとりがそれらについて自分の意見を持てるよう指導していきたい。

また、ペアワークやグループワークを積極的に行い、さまざまな意見を聞く場面を設けたい。葛藤しながらも多種多様な考えを自分の中に取り入れてほしい。答えのない問いに対しより正しい道を探し続ける力を身に付けてほしい。

04 | 展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	◎国際協力とは？ 日本が国際社会で果たすべき役割について考える。	日本が抱える経済問題などを明確にした上で、本当に日本は国際協力をするべきなのかを考える。	パワーポイント ワークシート
2 本時	◎世界の人々 国民性や価値観の違いによって生じる支援の難しさを知る。国際社会で繋がる難しさを知る。	カルチャーショックゲームを通し、文化の違いを感じる。同じように国民性や文化の違いから実際に支援する難しさを学ぶ。	パワーポイント ワークシート 資料
3	◎幸せとは？ 身近なモノから世界と日本の繋がりを考え、幸せとは何かという事を考える。	ファストファッションやスマートフォンなどを例に取り、便利な生活の裏側について知る。便利な暮らしの光と影を知る。	パワーポイント ワークシート
4	◎グローバル社会で「生きる」とは？ 世界での取り組みから、個人への取り組みへと焦点を移し、未来のことを考える。	これまで学んだことを通して、世界での取り組み（SDGs）や富山市の取り組みを学んだ後、自分なりにグローバル社会で「生きる」ためにどうしていくべきかを考える。	パワーポイント ワークシート

05 | 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (15分)	○カルチャーショックゲーム A国とB国に分かれ文化や価値観の違いを感じる。	ルールを全体で確認し、ルールを徹底させる。うまくゲームが進んでいないグループへ声かけをする。	パワーポイント ワークシート 指令カード
展開 (30分)	○同じだけど違う 同じ地球に住む同じ人間であるが、環境が変われば違う面もあることを学ぶ。 ○異国の地での支援 根岸隊員の報告を通して支援の難しさを感じる。また、資料からボランティアの難しさについて考える。	サモアでの経験を提示し、写真から日本人との違いを感じさせる。生徒の意見に耳を傾け、生徒の疑問を大切にする。 スライドだけではわからないサモアの文化を補填する。資料を個人で読ませ、個人で考えをまとめた後、意見を共有させる。	パワーポイント ワークシート 「ぼくのお父さんはボランティアというやつに殺された」
まとめ (5分)	振り返りシートを記入する。	授業を振り返り、他国の人と共存する上で大切にすべきことを自分なりに考えさせる。	ワークシート

≫ 授業実践の様子



→導入：カルチャーショックゲームの説明



→カルチャーショックゲームで文化や価値観の違いを認識



→「ボクのお父さんはボランティアというやつに殺された」を熟読中

06 | 本時の振り返り

本時では、同じ人間でも環境が変われば価値観や性格は違って来る、ということに気が付いてもらえるよう前時の授業を踏まえた授業を組み立てた。カルチャーショックゲームを通して文化や言語の違う人と関わることの難しさを疑似体験し、生徒はサモアと日本の違いを素直に受け入れていた。また、資料「ボクのお父さんはボランティアというやつに殺された」が生徒に与えたインパクトは大きく、「日本人と他国の価値観の違い」や「ボランティアの在り方や難しさ」、「幸せの感じ方の違い」などを生徒は実感することができていた。しかし、最後のまとめまでいけなかったことは非常に悔やまれる。様々な違いを実感した上で、その後、世界の人々と共存するためには何が必要になるかを個人で考え、意見を共有し、ディスカッションすることができていればより考えを深められたと思う。

07 | 単元を通した児童生徒の反応 / 変化

生徒の感想↓

- ・国際協力は大切だと分かっていたが、改めてその重要さに気づくことができた。みんな平等は難しいけど、みんなに活躍するチャンスは与えるべきだ。
- ・国際協力はしなければならないとはじめから思っていたが、授業を通して現地の人々をよく理解することが大切だと分かった。この4時間で今の国際問題やこれから問題になるだろう事を知る事ができて、自分のすべきことが分かった気がする。
- ・世界にはいろいろな問題があると分かった。改善するためにはどこかの国だけでなく、世界中で見直さなければいけない

と思った。

- ・自分はまだ学生だし、ボランティアとは程遠いと思っていたけど、4時間の授業によって、その考え方が変わった。海外ボランティアには前から行きたいと思っていたので、行く機会を有効利用したい。
- ・自分もこれから国際協力に関わっていきたいと強く思った。

→サモアでの実体験を提示した時は特に興味津々で、熱心に話を聞いていた。幸せの指標などを考える時も懸命に意見を出し合っていた。中には自分でサモアについて調べてきた生徒もいた。他の授業（英語や倫理）でも話題に出してくれたり、教科間の繋がりにおもしろみを感じてくれたりした生徒も数人いた。国際協力については、良いイメージだけでなく難しさも実感した生徒が多く、異文化理解や相手を知る事の重要性を再実感していた様子だった。また、これらの授業などから国際協力に興味を持ち、JICA が主催する研修に参加した生徒、大学で学びたい分野が見つかったと報告に来てくれた生徒もいた。

≫ 単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲

生徒の感想↓

- ・「環境が人をつくる」という言葉が印象的で繋がりを感じられた。地理や政治経済をもっと学びたいと思った。
- ・相手を知ることが大事だから自分からどんどん調べていきたい。
- ・こうやって現実を考える場を設けてもらえたのは嬉しい。私たちはもっと、考え、それを OUTPUT しなければいけない。

→「学ぶ意義」を見いだした生徒が増えたように思う。高校ではどうしても受け身の「受験へ向けての勉強」になりがちだが、この4時間を「知りたい」「こう成りたい」という意欲に繋がれたことが一番の成果だったと思う。以前より積極的に発言したり、討論したりすることが出来るようになった。今回の授業は主体的な学びへつながったと思う。

≫ 途上国・異文化への意識の変容について

生徒の感想↓

(授業前)

～途上国～

- ・先進国が支援するのが途上国である。
- ・生活するにあたって環境などが完璧に揃わず、不自由な暮らしをしているイメージ。汚い。
- ・国内の貧富の格差が大きい。
- ・暑くて自然豊か!
- ・モノカルチャー経済で、先進国の被害を受けている。(先進国を支えている)
- ・みんな仲がよさそう!

～異文化～

- ・異文化というと他人事なイメージがある。
- ・日本は外国人に対する差別などが多いから、日本は外国人への理解を深め、もっと関わっていくべきだと思う。

(授業後)

～途上国～

- ・国際協力が必要ないと思っていたが、必要なものだ気づけた。しかし、支援はその国から要請があればする、というやり方でいいと思う。日本は先進国だと言っているが日本が持ってなくて、途上国が持っているものもたくさんあるはずなので、それを受け取ることができれば価値観が同じになり国際協力がしやすくなるのではないかな。
- ・「幸せ」について考えたとき、途上国の方が日本より幸せなのではないかと感じた。
- ・MDGsによって1日に死んでしまう子どもの数があんなに減ったのには驚いた。小さな積み重ねで大きく変わるのであれば、SDGsだけでなくこれから更なる取り組みもあっていいと思った。そうすれば途上国の暮らしもよくなると思う。
- ・支援することは大切なことだけど、支援だけだと途上国は発展しないと思った。
- ・日本のような先進国の裏側では、苦しんでいる途上国の人たちが居ることが分かった。
- ・途上国への支援はせずに、現地の暮らしを保つ事も必要なのではないかな。

～異文化～

- ・国際理解って本当に大切だと思った。なんとなく大切なものだと思っていたが、相手の事を深く知った上でお互いがプラスになるようにすればいいことなのだと思った。今回の授業で「知る」という一歩目ができたのでさらに深く考えて行動していきたい。
- ・グローバル社会はお互いに価値観を認め合うことで成り立つものだ。幸せを感じる事は地域が違って変わらないと思っていたけど、それは違うのだと分かった。
- ・サモアはすごく魅力ある国だと思った。他の国にも非常に興味がある。

08 | 自己評価

≫ 1. 苦勞した点

伝えたいこと、考えて欲しいこと、討論して欲しいことがたくさんあり、それらを選択し構成することに苦勞した。多くの情報を与えなければ考えが浅くなる。一方で、伝えることに時間をかけると考えたり討論したりする時間が少なくなり学んだ事が深まらない。このバランスがうまくいかず、今回は結果的に考え討論する時間を充分に取ることができなかった。生徒の実態を踏まえより授業内容を吟味する必要があった。

また、今回は複数クラスで授業を展開することができたため少しずつ授業内容を改善することができた。しかし、生徒への発問はそれでも苦勞した。幸せについて考える授業を行った時、「幸せの指標には何が必要か?」と発問したクラスでは、質問が抽象的すぎて生徒の手は止まってしまった。そこで違うクラスでは、「ブータンの指標からあなたが最も重要だと思う指標を選ぼう!」、という選択できるものに変えた。それでも、考えは深まらなかった。「幸せの指標を創造しよう!」と発問したクラスでは、意見交換も活発になり楽しく考えを深めることができた。このように、問いかけの一問一句によって生徒の活動は大きく変容するため、どう問いかければ良いのか、という点で今回は非常に苦勞した。

≫ 2. 改善点

今回の実践授業では、政治経済や現代社会の教科書の内容に関連を持たせるため、国際機関や都市鉱山などについて詳しく説明をした。しかし、国際理解や開発教育を重要視するにはやはり生徒自身が主体的に会話をしたり発表したりする場・時間を設けるべきである。そのような時間を設定するには他教科と関連づけて実施することが望ましい。SDGsや環境問題は英語科や地歴公民科の中でも取り扱われている。医療や保健に関する課題は体育科の中でも学習する。今回実践した授

業内容と重なっている部分が他教科の中に多々あった、だからこそ、そこでうまく時間を他教科と共有できていれば、生徒が考える時間をもっと作り出すことができていたと思う。

改善した点としては、第4限「グローバル社会で生きるとは?」で使用した世界をよりよくするための標達成シートの提示の仕方があげられる。何も具体的テーマを与えず進めた時は記入に非常に時間がかかってしまった。そこで改善するためクラス全体に対し中心に据える共通のお題を出したところ、スムーズに進めることができた。その時は「世界の教育水準を上げる!」というお題を最初に中心テーマとして与え、そして全部で9つある空欄の内残り8枠についてグループでSDGsからお題を選ばせ、繋がりを考えさせた。最後、グループ発表を行った時に、クラス全体で全ての空欄を埋めていくようにしたがそれも比較的スムーズに進めることができた。生徒に創造させるような発問は動きが止まらないように、ある程度誘導していく必要があると感じた。

≫ 3. 成果が出た点

この単元を通して生徒にも自分自身にも変化があったと感じている。生徒にとって「グローバル社会」「国際理解」「国際協力」はよく耳にする言葉ではあるが、立ち止まって考える機会は無かった。今回の単元で改めて学ぶ意味を見つけられていた様に思う。これからの時代は、自ら考え行動する力が求められる。この4時間では絶対的な答えが無い問いを自分だけでなくグループやクラスで考えることが多く、そのプロセスを経る中で自由に意見する雰囲気を作りだされていったように思う。それは政治経済や現代社会だけでなく地理の授業でもその変化は見る事ができた。授業に対する意欲も上がったことは良い成果だったと思う。

また、自身の授業を振り返る良い時間となった。授業の構成や発問などによって生徒の変化を実感することができ、自分自身の学習意欲も高まった。多くの先生にも興味を持ってもらい、他教科との連携も少しずつ進めることができていたことも大きな成果である。

≫ 4. 担当クラス以外での実践・報告について (内容・対象人数)

①富山県高等学校教育研究大会での報告

対象：地理部会 (50名程度)

②第3学年地理 B での授業

対象：31名

③第2学年地理 B での授業

対象：14名

④異文化理解指導者養成講座で JICA 北陸教師海外研修の報告

対象：富山県内の教員 (20名程度)

⑤第2学年現代社会での授業 (校内互見授業)

対象：42名×2クラス+23名×1クラス+校内の教員10名程度

⑥第2学年政治経済での授業

対象：41名×1クラス、38名×2クラス、14名×1クラス

校内教員15名程度

≫ 5. 備考 (授業者による自由記述)

今回の単元を生徒だけでなく、先生へも還元したいという想いがあり、互見授業や校内研修を利用して多くの先生に観ていただいた。授業を通して、英語科や国語科、家庭科の教員からそれぞれの教科と関連がありおもしろいと意見していただ

いた。教科横断的な授業実践の可能性を感じた。各教科と連携して授業を展開できれば、より学習が深まり国際理解教育も活発になると実感した。特に来年度から実施されるという「総合的な探求の時間」に組み込むことができれば、より時間をかけて内容を深めていくことができると考える。

【添付資料】

- ① パワーポイント「国際協調～グローバル社会で「生きる」とは?～」4時間分
- ② ワークシート・・・パワーポイントとリンクしたワークシート4時間分
- ③ カルチャーゲーム指令カード

【参考資料】

日本国憲法前文

外務省「MDGs から SDGs へ」

統計局「日本の年齢人口割合」

日本ユニセフ協会、ユネスコ協会連盟、国連 WFP 協会、日本 WHO 協会、国連 UNHCR 協会それぞれの HP

宮崎大輔「ボクのお父さんはボランティアというやつに殺された」

ルール

①グループをつくる（4～5人）

②グループで1人リーダーを選出する（リーダー＝A国）

③ルールの概要を説明する

④A国は別の場所で指令カードを読み込み準備する

⑤B国はスライドでルールを説明する

⑥A国は自分のグループに戻り自国を責め

⑦振り返り A国の人から話を聞く

指令カード

A国

・明るく、陽気な性格

→楽しいことがあると手をたたく！

・日本語が話せる

・とにかく相手を褒める

・「バレバレ」があいさつ

指令カード

B国

・基本的に暗い

・笑う事はダメな事

→笑ったら舌打ちをする

・B国語しか話せない

B国語

①話せるのは単語のみ

②単語の頭文字＋「ら」

例)

・こんにちは→「こら」

・すき→「すら」

・あなた→「あら」

③数字は名前の頭文字を繰り返す

例) やまざき さとみ

・3→やざや

・4→やざやざ

【添付資料】 ③ カルチャーゲーム指令カード

国際協調
～グローバル社会で「生きる」とは～

1 限目：国際協力とは？

★国際協力についてどう思いますか？

- ・ 国同士でお互い **助け合うことは大切** であると思う
- ・ **国境** を越えていろんなことを知れそう
- ・ 日本も **積極的に参加** すべき
- ・ 世界が **まとまり、平和** に繋がっていくと思うので良いと思う

★国際協力についてどう思いますか？

- ・ 互いの国の技術的だけでなく **国家としても成長** できる
- ・ 政治だけでなく **人の心も豊か** になる
- ・ **同じ人間** だから手と手を取り合って、一緒に生きていくのは当たり前！（Hand in hand!!）
- ・ いつか **行きたい**

★国際協力についてどう思いますか？

- ・ **遠い存在**
- ・ 心の綺麗な人がやる活動
- ・ **考えたことは無かった**
- ・ 大事であると思うが、**何をすれば良いのか分からない**
- ・ 思っているけど、**なかなかできないのが現状**

1. 日本の国際協力

国際機関

政府・政府関係機関

NGO
(非政府組織)

民間企業

1. 日本の国際協力 ①国際機関

国連に関する組織

A ユニセフ



世界の未就学児童数
6,700万人

出典：ユニセフ

1. 日本の国際協力 ①国際機関

国連に関する組織

B ユネスコ





出典：ユネスコ

1. 日本の国際協力 ①国際機関

国連に関する組織

9人に一人

C 世界食糧計画 (WFP)



出典：WFP

1. 日本の国際協力 ①国際機関

国連に関する組織

D 世界保健機関 (WHO)



出典：WHO

1. 日本の国際協力 ①国際機関

国連に関する組織

E UNHCR



約1,994万人の難民

出典：UNHCR

1. 日本の国際協力 政府・政府関係機関

①F 政府開発援助 (ODA)

Official Development Assistance

- ・ 開発途上国の発展に寄与することが目的
- ・ 政府 (政府関係機関) による国際協力活動
- ・ 資金や技術を提供

2016年 日本は **1兆1241億円** を使いました。

1. 日本の国際協力 政府・政府関係機関

②G 国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

貧困など、世界にまだ存在する課題や問題を相手国と一緒に良くしていく仕事

JICA事業について

ODA 政府開発援助

二国間援助

多国間援助

① 技術協力

② 有償資金協力

③ 無償資金協力

④ 国際緊急援助

⑤ 民間連携

⑥ 市民参加協力

JICAが行う事業とは？

1. 農業、医療、教育など、日本の技術や経験を教える → **技術協力**
- 2.3. 道路や空港、学校や病院などを建てるため、資金を貸与、譲与する → **有償資金協力・無償資金協力**
4. 大きな災害が起きた時に、救助チームや医療チームを派遣する → **国際緊急援助**
5. 日本の企業が持っている技術や製品を途上国の課題解決に役立てると共に日系企業のビジネス拡大を狙う → **民間連携**
6. 市民、自治体、NGO、大学等と一緒に国際協力を行う → **市民参加協力**

1. 日本の国際協力 政府・政府関係機関

②国際協力機構 (JICA)



【添付資料】 ① パワーポイント「国際協調～グローバル社会で「生きる」とは?～」4時間分

1. 国際協調とは？

(1/2)

1. 日本の国際協力

②国際協力機構（JICA）

政府・政府
関係機関



1. 日本の国際協力

②国際協力機構（JICA）

政府・政府
関係機関



1. 日本の国際協力

②国際協力機構（JICA）

政府・政府
関係機関



1. 日本の国際協力

NGO
(非政府組織)

日本では400程度
アメリカと比べて規模が小さい事が特徴

民間企業

味の素(株)などによる食・栄養改善などの支援

2. 日本の現状

★日本はどんな問題を抱えているだろう？

①少子高齢化



出典: 統計局

2. 日本の現状

★日本はどんな問題を抱えているだろう？

②東日本大震災の復興



出典: 復興庁

2. 日本の現状

★日本はどんな問題を抱えているだろう？

③国債の発行

日本政府の公債残高（平成30年度末）
→国・地方合計で**1,107兆円**の見込み
→**対GDP比**だと**196%**の見込み

出典: 財務省

★国際協力は本当に必要だろうか？

国際緊急援助隊

技術協力 資金協力

なぜ日本は国際協力を
をするの？

課題解決 地球の問題

開発途上国

国際社会には目標があります

国際連合(国連)では、開発途上国に対して国民総所得の0.7%以上をODAに使う、という目標を先進国に掲げています。

日本は、2016年、0.2%を使いました。

0.7%以上使ったのは、イギリス・ドイツ・デンマーク・スウェーデン・ルクセンブルク・ノルウェーの6ヶ国です。

3. 日本が国際協力する理由

①人道的観点

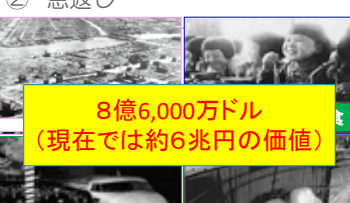


F「人間の安全保障」という考え方

3. 日本が国際協力する理由

② 恩返し

8億6,000万ドル
(現在では約6兆円の価値)



東海道新幹線 黒部第四ダム

3. 日本が国際協力する理由 ②恩返し

東日本大震災

・ これまでに**163か国・地域及び43国際機関**から支援の申し出

・ これまでに**24の国と地域**からの緊急援助隊、医療支援チーム、復旧



日本から海外に展開する建設業の成長戦略 (東日本大震災)

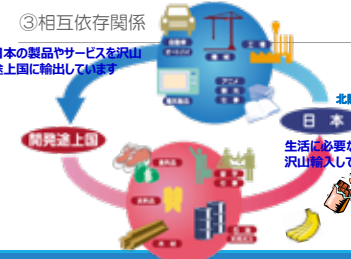
3. 日本が国際協力する理由

③相互依存関係

日本の製品やサービスを汎山途上国に輸出しています

北緯 日本

生活に必要な物を汎山輸入しています



4. まとめ

同じ世界に住む、同じ人間。
助け合うのは当たり前！

① パワーポイント「国際協調～グローバル社会で「生きる」とは?～」4時間分

1. 国際協調とは？

(2/2)

前回の振り返り

- ・私たちよりも貧しい国の人たちから援助してもらったことを知り感動した(泣きそうになった)
- ・国際協力はお互いの国にとって+の関係
- ・日本のように援助されて成長することのできる地域はたくさんあると思うから日本は国際協力すべき

前回の振り返り

- ・日本は支援している側だとずっと思っていた。日本はお金の使い方を考えなければいけない
- ・困っている人がいたら助けるのは当たり前な事。人種やお金は関係ない！

**同じ世界に住む、同じ人間。
助け合うのは当たり前！**

国際協調
～グローバル社会で「生きる」とは～

2限目: 世界の人々

カルチャーゲーム
～ルール説明～

- ①グループをつくる(5人)
- ②グループ名を決める
- ③サングラスを1人ずつつける
- ④その国の文化について発表する
- ⑤発表が終わったら、他のグループから質問を受ける
- ⑥振り返り

自国を貫く！

カルチャーゲーム **B国**

- ・基本的に暗い
- ・笑う事はダメな事

→笑ったら舌打ちをする

- ・B国語しか話せない

B国語
①話せるのは単語のみ
②単語の頭文字+「ら」
例) ・こんにちは→「こら」
・すき→「すら」
・あなた→「あら」
③数字は名前の頭文字を繰り返す
例) やまざき さとみ
・3→やさや
・4→やさやさ

カルチャーゲーム
～ルール説明～

- ①グループをつくる(5人)
- ②グループ名を決める
- ③サングラスを1人ずつつける
- ④その国の文化について発表する
- ⑤発表が終わったら、他のグループから質問を受ける
- ⑥振り返り

自国を貫く！

カルチャーゲーム

★相手の国(リーダー:A国、その他B国)はどんな国だと思いましたか？

A国の人から感想を聞こう！

カルチャーゲーム **A国**

- ・明るく、陽気な性格

→楽しいことがあると手をたたく！

- ・日本語が話せる
- ・とにかく相手を褒める
- ・「パレパーレ」があいさつ

カルチャーゲーム **B国**

- ・基本的に暗い
- ・笑う事はダメな事

→笑ったら舌打ちをする

- ・B国語しか話せない

B国語
①話せるのは単語のみ
②単語の頭文字+「ら」
例) ・こんにちは→「こら」
・すき→「すら」
・あなた→「あら」
③数字は名前の頭文字を繰り返す
例) やまざき さとみ
・3→やさや
・4→やさやさ

1. 同じだけ違う
～サモアと日本の比較～

サモア



どこが違うだろうか？

ズバリ！ここが違う！

その1... **体型**

- ・ふくよかな体型
- ・健康に対する意識

1. 同じだけ違う
～サモアと日本の比較～

サモア



違和感ある？

ズバリ！ここが違う！

その2... **性別**

- ・第3の性 ファファフィネ

1. 同じだけ違う
～サモアと日本の比較～

サモア



何をしているところ？

ズバリ！ここが違う！

その3... **ポテンシャル**

- ・歌、ダンス、身体能力

その4... **自給自足の生活**

【添付資料】 ① パワーポイント「国際協調～グローバル社会で「生きる」とは?～」4時間分

2. 世界の人々

(1/2)

1. 同じけど違う ～サモアと日本の比較～

サモア



ズバリ！ここが違う！



その5...

性格

- ・ゆったり～
- ・なかなか計画的に行動できない
- なぜ？



熱帯

植民地

環境が人をつくる

2. 異国の地での支援 ～現地の隊員の中間発表～

この国の文化

働かない

サポートをみたいけど～

年上が絶対

変化が起きづらい

独すぎる愛国心・誇り

教育への向上心が強い

離れても生きてける

教育への向上心が強い

出典：根岸隊員ブログ

2. 異国の地での支援 ～現地の隊員の中間発表～

自分の考え方、行動

環境

この国の文化

教育

出典：根岸隊員ブログ

★世界の人々と共存
するために必要なこと
は何だろうか？

3. まとめ

知ろうとする心。
受け入れる心。

① パワーポイント「国際協調～グローバル社会で「生きる」とは?～」4時間分

2. 世界の人々

(2/2)

国際協調
～グローバル社会で「生きる」とは～

3限目：幸せとは？

25Hの意見

- ・対等に話す事が大事
- ・裕福でないと生きていけない
- ・リスペクトすべき
- ・国家という概念を捨てるべき
- ・自国を貫くことも必要
- ・国際協力が必要か分からなくなった
- ・相手が必要とする時に支援すればよい

24Hの意見

- ・国際協力は大切といいながらも、私たちはその国の本来あるべき姿を壊しているかもしれない。
- ・最低限の暮らしをしても、十分に幸せである人々も多く居る
- ・現地で暮らしている人みんなが先進国のようになりたいと思ってるわけではなく、ボランティアや偉い人が言うからやっている人もいんだろっな

24Hの意見

- ・家電製品に囲まれ、やることに手間がかからない、少しでも楽になりたいという「幸せ」もあるが、他国には違う幸せもあることに気づいた。
- ・国際支援と言うのは、必ずしも途上国を幸せにするとは限らない。経済発展よりも、独自の文化を守ることが大切
- ・何を優先させるべきか難しい

26Hの意見

- ・「自分ファースト」ではなく「相手ファースト」
- ・自分の意見も伝え、より良い考えを一緒に作っていくことが大事
- ・相手の文化を否定し、変えるのではなく、その文化の良いところを伸ばしていくのがいいと思った。

26Hの意見

- ・その文化を受け入れ、生活してみることが重要だと思う
- ・文化が違えば「幸せ」の定義も変わってくる
- ・すぐにその答えは出ないかもしれないけれど、悩み続けることで何か分かるのではないかと思った

24Hの意見

- ・固定概念を一度捨てて、その国の人々の生活の仕方や考え方の違いを実際に知る事が大切だ
- ・世界の人々の良い部分を自分たちの国でも試し、取り入れる事が大切だ
- ・自分たちで実践していかなければ、どうやっても長続きしないだろうし、良い効果も出ないと思う

21Hの意見

- ・「貧しい」とは私たちにとってはお金の無いことを意味するが、他の国ではお金が無いことで苦しんでいる訳ではない事が分かった
- ・逆の見方
- ・当たり前なんてないのがいい！

21Hの意見

- ・同じ事をするように言うのは間違い。その国の特徴や環境、生活スタイルを考えて助けあう事が大切だ。
- ・文化が違う理由から思い通りに支援する事ができず、ボランティアが支配に変わる可能性が出てくるのではないかと心配になった

23Hの意見

- ・人の価値観を否定しないこと、文化や環境を理解することが大切
- ・それぞれの国に個性があるからそれを壊さないようにすべき
- ・どちらが上とか下とか決めずに平等に接するべきである
- ・共存は必要なのだろうか？今のままでいいと思う。

前回の授業で多かった意見

- ・価値観の違いが分かった
- ・押しつけは良くない
- ・相手を知る事が大事！

国際協調
～グローバル社会で「生きる」とは～

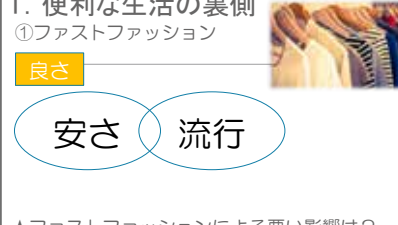
3限目：幸せとは？

1. 便利な生活の裏側
①ファストファッション



★ファストファッションのよいところは？

1. 便利な生活の裏側
①ファストファッション



★ファストファッションによる悪い影響は？

知る事が大事と言っているけど...

★便利な生活の裏側の真実に気づいていますか？

【添付資料】 ① パワーポイント「国際協調～グローバル社会で「生きる」とは?～」4時間分

3. 幸せとは？

(1/3)

1. 便利な生活の裏側 ①ファストファッション

問題点

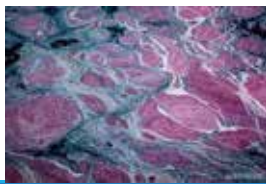
(1) A 大量の廃棄物



1. 便利な生活の裏側 ①ファストファッション

問題点

(2) B 環境汚染



1. 便利な生活の裏側 ①ファストファッション

問題点

(3) C 劣悪な労働条件

1134人が死亡



1. 便利な生活の裏側 ①ファストファッション

問題点

(3) 劣悪な労働条件

バングラデシュ 8
カンボジア 4
中国 87
インドネシア 14
タイ 3
ベトナム 28

1. 便利な生活の裏側

②携帯電話

★希少金属（レアメタル）は知ってる？



1. 便利な生活の裏側

②携帯電話

レアメタルの用途



1. 便利な生活の裏側

②携帯電話

★希少金属はどこで採れるのだろう？



1. 便利な生活の裏側

②携帯電話 ★どこで採れるのだろう？

レアメタル	中国	インド	トルコ	その他
コバルト	2,730万t	84.0%	13.0	12.0
リチウム	1,780万t	26.5%	17.1	16.0
ニッケル	266万t	31.4%	11.5	9.1

1. 便利な生活の裏側

②携帯電話 ★どこで採れるのだろう？

レアメタル	中国	インド	トルコ	その他
コバルト	8.68%	81.0%	46	13.6
リチウム	12.3%	5.12%	14	2/8
ニッケル	23.6%	35.3%	22.4	20.2

アフリカ 中国 東南アジア

1. 便利な生活の裏側

②携帯電話

学校へ行かず働く子供たち

暴力が支配する
コンゴの鉱山



学校に行けないとどうなる？



便利な暮らし裏側では
苦しんでいる人がいる

2. 幸せの指標



2. 幸せの指標

①貧困ライン

1日を1.9ドル以下で生活する人々を国際貧困ラインとしている。
(2015年10月から使用、世界銀行が設定)

日本円で約215円

★この指標の問題点は？

2. 幸せの指標

①貧困ライン ★指標の問題点

お金ベースでしか捉えることができない。

教育レベルや、健康状態、衛生状態は読み取れません。国別の状況も分かりません。

① パワーポイント「国際協調～グローバル社会で「生きる」とは?～」4時間分

3. 幸せとは？

(2/3)

2. 幸せの指標

②G人間開発指数（HDI）

HDI: Human Development Index
人間開発指数（HDI）は、保健、教育、所得という**人間開発の3つの側面**に関して、ある国における平均達成度を測るための指標

人間開発指数のランキング<2015年>

国連 開発計画 (United Nations Development Programme)

順位	国名	順位: pts
1	ノルウェー	0.95
2	アイスランド	0.94
3	オーストラリア	0.94
4	スイス	0.93
5	フィンランド	0.92
6	デンマーク	0.92
7	オランダ	0.92
8	アイスランド	0.92
9	アイスランド	0.92
10	オランダ	0.92
11	スウェーデン	0.91
12	スウェーデン	0.91
13	ニュージーランド	0.91
14	スウェーデン	0.91
15	リヒテンシュタイン	0.91
16	アイスランド	0.91
17	アイスランド	0.90

←上位にくる国々

「世界幸福度調査」

(世界幸福度調査委員会・インターナショナル・ウェルビーイング・インスティテュート)

順位	国名	順位	国名
1位	フィジー (89)	25位	日本 (55) ※昨年は28位
2位	フィリピン (79)	29位	カナダ (50)
3位	中国 (79)	33位	アメリカ (48)
4位	ベトナム (78)	35位	イギリス (47)
5位	インドネシア (78)	37位	ドイツ (46)
6位	パナマ (77)	44位	フランス (43)
7位	バハマ (77)	52位	イタリア (38)
8位	バハマ (77)		
9位	バハマ (77)		
10位	バハマ (77)		

↓「先進7カ国 (G7)」

主観的な幸せをみると？
幸せは人それぞれ！

2. 幸せの指標

③国民総幸福（GNH）

GNH = Gross National Happiness

「GNHはGNPより大切である」
-1976年 第4代ブータン国王-

2. 幸せの指標

③国民総幸福（GNH）

<GNHの9つの領域>

- ① 生活水準
- ② 環境
- ③ 健康
- ④ 教育
- ⑤ 文化
- ⑥ 感情の豊かさ
- ⑦ 時間の使い方
- ⑧ 地域の活力
- ⑨ 良い統治

★幸せを計る指標を創造しよう！

3. まとめ

本当の「幸せ」はお金では買えない。

人間の究極の幸せ

一、人に愛される

二、人に認められる

三、人の役に立つ

四、人に必要とされる

【添付資料】 ① パワーポイント「国際協調～グローバル社会で「生きる」とは?～」4時間分

3. 幸せとは？

(3/3)

前回の振り返り(感想)

- ・途上国を支援している僕たちみたいな国の幸せ度は途上国より低くて、**本当に支援されるのは僕たちみたいな国なのかもしれない**
- ・ただ、普通に過ごしていただけなのに影響があるのに驚いた。前回の授業では相手国のことを考えて接すれば全ての国が幸せになれると簡単に考えていたが、**難しい**ことが分かった

前回の振り返り(あなたの幸せとは?)

- ・地域ごとの年齢
地域に必要なものが見えてくるはず!
- ・**周りに迷惑をかけず**に、自分が幸せだと感じる事
- ・**やりがいのある仕事**について、みんなと楽しく暮らしたい
- ・**健康で笑って暮らせる生活**が1番豊かと言えるのではないかな

前回の振り返り(幸せの指標)

- ・国民笑顔指数
- ・自由な時間
- ・1週間の労働時間
- ・寝る時間
- ・家族や大切な人の存在
- ・喜怒哀楽…喜(+)、怒(-)
- ・プライベート充実指数
- ・幸せと感じる回数
- ・環境
- ・災害の数

前回の振り返り(幸せの指標)

- ・自国についてどう思うか
- ・食べ物シェアハピ率
- ・褒め言葉回数ランキング

国際協調
～グローバル社会で「生きる」とは～

4限目:
グローバル社会で「生きる」とは?

これまでの振り返り

①国際協力の必要性(why)
②国民性(why)
③幸せとは?(what)
④これからどう生きていくか?(How)

過去
↓
現在
↓
未来

1. 世界で取り組んでいること
①持続可能な開発目標(SDGs)

Sustainable Development Goals

SDGsとは…
B**貧困**や**不平等**・格差、C**気候変動**など、さまざまな問題を根本的に解決を目指す**世界共通の17の目標**

1. 世界で取り組んでいること
①持続可能な開発目標(SDGs)

1. 世界で取り組んでいること
①持続可能な開発目標(SDGs)

富山市は「**環境未来都市**」に選定

1. 世界で取り組んでいること
①持続可能な開発目標(SDGs)

富山市は「**SDGs 未来都市**」に選定

1. 世界で取り組んでいること
①持続可能な開発目標(SDGs)

ミレニアムサミット
↓
ミレニアム開発目標(MDGs)
↓
持続可能な開発目標(SDGs)

2015年からは2030年まで
2015年からは2030年まで

1. 世界で取り組んでいること
①持続可能な開発目標(SDGs)

MDGs

- ゴール1: 貧困を撲滅をしよう
- ゴール2: あらゆる人々に食料を確保しよう
- ゴール3: ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントの促進をしよう
- ゴール4: 子どもの死を減らそう
- ゴール5: 妊産婦と子どもの健康状態を改善しよう
- ゴール6: 清潔・安全な水と衛生を確保しよう
- ゴール7: 持続可能なエネルギーを確保しよう
- ゴール8: 持続可能な産業と雇用を創出しよう
- ゴール9: 持続可能な都市と交通を創出しよう
- ゴール10: 国内・国際的な格差を減らそう
- ゴール11: 持続可能な都市とコミュニティを創出しよう
- ゴール12: 持続可能な消費と生産を促進しよう
- ゴール13: 気候変動に具体的な対策を
- ゴール14: 持続可能な海洋資源を確保しよう
- ゴール15: 陸域生態系の持続可能な管理を
- ゴール16: 平和と公正を達成しよう
- ゴール17: パートナーシップを強化しよう

1. 世界で取り組んでいること
①持続可能な開発目標(SDGs)

MDGs

- ゴール1: 貧困を撲滅をしよう
- ゴール2: あらゆる人々に食料を確保しよう
- ゴール3: ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントの促進をしよう
- ゴール4: 子どもの死を減らそう
- ゴール5: 妊産婦と子どもの健康状態を改善しよう
- ゴール6: 清潔・安全な水と衛生を確保しよう
- ゴール7: 持続可能なエネルギーを確保しよう
- ゴール8: 持続可能な産業と雇用を創出しよう
- ゴール9: 持続可能な都市と交通を創出しよう
- ゴール10: 国内・国際的な格差を減らそう
- ゴール11: 持続可能な都市とコミュニティを創出しよう
- ゴール12: 持続可能な消費と生産を促進しよう
- ゴール13: 気候変動に具体的な対策を
- ゴール14: 持続可能な海洋資源を確保しよう
- ゴール15: 陸域生態系の持続可能な管理を
- ゴール16: 平和と公正を達成しよう
- ゴール17: パートナーシップを強化しよう

1. 世界で取り組んでいること
①持続可能な開発目標(SDGs)

ミレニアムサミット
↓
ミレニアム開発目標(MDGs)
↓
持続可能な開発目標(SDGs)

2015年からは2030年まで
2015年からは2030年まで

前回の授業では…
～携帯電話～

学校へ行かず働く子供たち

目撃する witness | 暴力が支配する
コンゴの鉱山

① パワーポイント「国際協調～グローバル社会で「生きる」とは?～」4時間分

4. 国際社会で生きるとは?

(1/2)

世界と日本と自分：自分がよければそれでいい？

スマホ 編

2. あなたはどう取り組む？

2. あなたはどう取り組む？

①観光客の増加

<訪日外国人の数>

2013	→	1,036万人
2014	→	1,341万人
2015	→	1,973万人
2016	→	2,403万人
2017	→	2,869万人

観光客は今後 もっと増えていく

今は外国からの留学生も急増しています。2020年までに国は30万人の留学生受け入れを目標にしている。

出典：日本国際観光局 (JNTO)

2. あなたはどう取り組む？

②日本で働く外国人の増加

◆外国人研修生・技能実習生の増加
約27万4千人 (2017年度末厚生労働省データ)

◆外国人看護師・介護福祉士の増加
約4,700人 (2017年9月厚生労働省データ)

2017年6月時点
日本に住んでいる外国人
247万人

将来外国の人と一緒に働くかもしれない

法務省データ

2. あなたはどう取り組む？

③その他の関わり

<自分の意志で海外へ行くパターン>

- 観光
- 留学 (短期・長期)
- 海外ボランティア など

<自分の意志ではないパターン>

- 海外駐在
- 海外駐在に伴う、家族帯同 など

将来の自分の家族に関わってくる可能性

2. あなたはどう取り組む？

～サモアで実感したある国の力～

それは…

2. あなたはどう取り組む？

～サモアで実感したある国の力～

2. あなたはどう取り組む？

★グローバル社会でみんなが幸せになるにはどうしたらいいだろう？

2. あなたはどう取り組む？

大谷翔平

2. あなたはどう取り組む？

国名	人口	GDP	主要産業	主要都市	主要言語	主要宗教	主要文化
中国	14億	11.6兆円	製造業	北京	中国語	仏教・道教	中華文化
インド	13.8億	2.5兆円	IT産業	ニューデリー	ヒンディー語	ヒンドゥー教	インド文化
米国	3.2億	20.5兆円	IT産業	ワシントン	英語	キリスト教	アメリカ文化
日本	1.26億	5.4兆円	製造業	東京	日本語	仏教・神道	日本文化

自分と向き合う時間

3. まとめ

日本の役割とは...

日本国憲法の前文を見てみよう！

【添付資料】 ① パワーポイント「国際協調～グローバル社会で「生きる」とは?～」4時間分

4. 国際社会で生きるとは？

(2/2)

2年政治経済

第1限：国際協力とは？

2年組 番 名前

★国際協力についてどう思いますか？

1. 日本の国際協力

①国際機関

a. ユニセフ

世界中の子どもたちの命と健康を守るために活動

b. エドモント

教育・科学・文化、コミュニケーションを通じて国際理解や国際協力を推進

c. 世界食糧計画 (WFP)

飢餓のない世界を目指して活動する国連の食料支援機関

d. 世界保健機関

世界中の健康や医療に関する活動

e. 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)

紛争や迫害により難民や避難民となった人々を国際的に保護・支援し、難民問題の解決へ向けた活動

②政府・政府関係機関

f. 政府開発援助 (ODA)

開発途上国の発展に寄与することが目的

g. 国際協力機構 (JICA)

課題や問題を相手国と一緒に良くしていく仕事

2. 日本の現状

★日本はどんな問題を抱えているだろう？

① 少子高齢化

② 東日本大震災の復興

③ 国債の発行

4. 一人に一人が65歳以上

日本の公債残高…約1,107兆円、対GDP比…196%

★国際協力は本当に必要だろうか？

必要である or 必要でない

なぜそう思う？

3. 日本が国際協力する理由

① 人道的観点

「人間の安全保障」という考え方

② 復興

第二次世界大戦からの復興

東海道新幹線や黒部ダムなど建設

世界銀行から8億6,000万ドル

(現在では6兆円の価値)

返済完了：1990年7月

③ 東日本大震災の復興

163カ国、43国際機関が支援の申し入れ

196

③ 相互依存関係

4. 振り返り

【添付資料】 ② ワークシート… パワーポイントとリンクしたワークシート4時間分

第1限 国際協力とは

2年政治経済

第2限：世界の人々

2年組 番 名前

★カルチャーゲームをして思ったこと

相手の国（国）はどんな国だと思いましたか？

カルチャーゲームで気づいたこと

1. 同じけど違う

★日本人とサモア人を比較して写真から違いを見つけよう

※ 環境が人を作る

2. 異国の地での支援

プリントを読んで考えたこと

3. まとめ

★世界の人々と共存するために必要なことは何だろう？

MEMO

【添付資料】 ② ワークシート… パワーポイントとリンクしたワークシート4時間分

第2限 世界の人々

140

2年政治経済

第3限：幸せとは？

2年組 番 名前

1. 便利な生活の裏側

①ファストファッション

★ファストファッションの良いところは？

問題点

(1) A. 大量廃棄物

(2) B. 環境汚染

(3) C. 劣悪な労働環境

→バングラデシュではビルの崩壊、1,134人が死亡

②携帯電話

★レアメタルはどこでとれるのだろうか？

予想…

結果…



無限の学校へ行けない負のサイクル

→便利な暮らしの裏側には、誰かが苦しんでいる人がいる。

2. 幸せの指標

①貧困ライン

1日を1.9ドル以下で生活する人々を国際貧困ラインとしている。

(2015年10月から使用 世界銀行が設定)

問題点: ① ② ③

日本円で 約2,150円

②人間開発指数 (HDI)

保健、教育、所得という人間開発の3つの側面に関して、ある国における平均達成度を測るための指標

→日本(2015年) HDIは、1.7位!

③国民総幸福 (GNH)

★幸せを計る指標を創造しよう!

指標:

理由

3. 振り返り

【添付資料】 ② ワークシート… パワーポイントとリンクしたワークシート4時間分

第3限 幸せとは？

2年政治経済

第4限：グローバル社会で「生きる」とは？

2年組 番 名前

1. 世界で取り組んでいること

★持続可能な開発 (SDGs.)

SDGsとは…

① 貧困 ② 飢餓 ③ 健康と福祉 ④ 質の高い教育 ⑤ ジェンダー平等 ⑥ 持続可能な消費と生産



2000年… ミレニアムサミット

ミレニアム開発目標 (MDGs.)

2016年

持続可能な開発目標 (SDGs.)

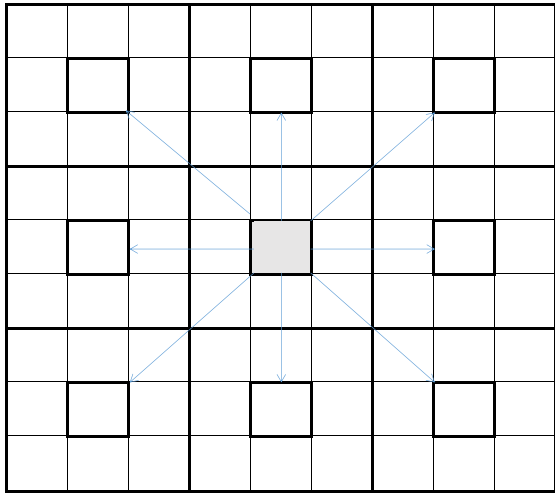


2. あなたはどのように取り組む？

～サモアで感じた ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

開発学ではそれを ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★世界がよりよくなるにはどうすればいいだろう？



3. 振り返り

(1) 4時間の授業を通して一番心に残っていることは何ですか？

(2) 授業を通して「国際協力」や「グローバル社会」の考え方はどう変化しましたか？

はじめ 今

(3) 意見・感想

【添付資料】 ② ワークシート… パワーポイントとリンクしたワークシート4時間分

第4限 グローバル社会で生きるとは？

≫ 1. 今回の研修参加に際し、特に主眼をおいた点

高校教員として思春期の子どもたちと触れ合っていると、子どもの成長を感じる事が多々ある。そこでサモアでは、子どもたちの成長に影響を与えている要因に注目した。日本との共通性や違いに着目しながらこの研修に参加した。

≫ 2. 視察を通して見つけた途上国の姿、疑問に思ったこと

「途上国」と聞くだけで、正直なところ貧しく辛い生活を想像していた。しかし、サモアには多くの笑顔が見受けられた。途上国＝貧困ではないし、また国の発展は必ずしも幸せと比例するものではないことを、身をもって感じた。しかし、幸せそうに見えるサモアの人々の問題点も視察をしていく中で見えてきた。マタイ制という酋長文化、植民地とされてきた歴史的過去、島国の地形、熱帯の気候、そこから作られる農作物。他にも様々な要因が存在し、それらが複雑に絡み合っており、サモア独自の世界を築き上げてきたことは分かったが、そんなサモアの世界は沢山の笑顔と同時に問題・課題も生み出していた。問題・課題を改善させていく主役はサモアの人達だと思うが、サモアの世界で育った人々の行動やマインド、人柄を変えることは簡単ではなく、問題は一方向からでは解決しないと言うことが現地に行ってみて分かった。

視察を通して感じたことは、支援ばかり先走るのでは意味がない、ということだ。今のサモアは支援をマンパワーとして受け取っているように思えた。自分達の力を上げる意図で受け取っていただければ、自国のみで自立を実現していくことは難しいと感じた。事実、「危機感を持って生きている」という雰囲気はサモアの人々から感じ取ることはあまり出来なかった。自分たちの手で変えよう、という決意が芽生える、心が揺さぶられるようなことは何なのだろうか、という疑問が残った。

とにかく重要なことは、その国の事をしっかりと知った上で必要な支援を精査すること、そして現地の人々と共通した思いで支援をすることだ。

≫ 3. 研修を通して、自身の成長に繋がったこと、子供達に特に伝えたいこと

自分について改めて立ち止まって考えられたことが、自分の成長に繋がったと思っている。現地を見た、日本との違いや共通性を自分に置き換えて考えていた時に、今まで持っていなかった疑問が自分の中に出てきた。果たして自分の個性とは何なのか、教員としての強みは何なのか、日本の教育はこれでいいのだろうか、富山で生きる私がこれから自分を活かしていくためには何をしなければいけないのだろうか、自分は今後どうあるべきなのだろうか…。正直なところ、この研修が終わった今、まだその答えは出ていない。しかし、教員として今の学校で自分にできる事は「グローバル人材」を育てることだと考えている。その種をまくことが自分の役割であるという風に感じている。目まぐるしく変化する世界でこれから活躍したいと言っている生徒たち。日本の素晴らしさとともに、海外でも活かしていける能力を生徒と一緒に考え、見つけていきたい。また、この研修で改めて「幸せ」とは目に見えないものであるという事に気づかされた。モノであふれた日本で「幸せ」について考え、それを国際理解、自己実現につなげられるよう手立てを行っていきたい。

≫ 4. 今年度だけでなく、今後の国際理解教育活動への活用について（構想）

今回の研修では、教材となるべき題材がたくさんあった。今後、現代社会、政治経済、世界史、地理など、様々な教科の中で今回学んだことを取りあげることができると感じている。また、教科だけでなく総合的な学習や行事などでも国際理解教育が出来ると考えている。本校では国際理解教育を学校をあげて積極的に実施しているため JICA を通したイベントやコンテストを積極的にアナウンスし周知を図りたい。

これを継続的に行うために、地歴公民科や英語担当の先生が実施できるようなデータを作成することを考えている。また、

国際理解に関して今回の研修での繋がりを大切に、それを他の人達にもつなげていけるような関係作りにも努めたいと考えている。

≫ 5. 研修に関する全般的な所感

自分が思っていた以上に、多くの事を考えさせられた研修だった。タイトなスケジュールだったが、様々な側面から1つの国をみることができ、問題は一方からでは解決できないことが理解できた。サモアは小さな島であり移動にあまり時間がかからなかったため、多くの場所を訪問することができたと聞いている。多くの場所を訪問できたことは本当によかったと思う。

また、1日の振り返りを実施することで自分では気づけなかった点に気付くことができ理解が深まった。普段学校現場にいと生徒指導や教科指導、部活動指導などで忙しく、自分たちの活動を立ち止まって冷静に客観的に見る機会があまりない。同じようにはじめはサモアで知る様々な現実が積み重なっていただけだったが、毎日振り返ることで見たことが整理され、新たな発見も多く生まれた。校種も年齢も異なるメンバーで話しあうことでその理解も深まったと思う。

最後にこのような研修を設定してくださった、JICA の方や現地の方に感謝したい。

≫ 6. JICA に対する要望・提言

とても素晴らしい研修で、様々な人に勧めたいと思った。短い時間であったが、多くの人と関わり、様々な場所へ見学に行かせてもらったことが良い経験になったと実感している。

研修から帰ってきて強く感じたことは「教育現場ではこのような研修を必要としている」ということである。私自身、最近教育現場で頻繁に飛び交う「アクティブラーニング」や「教科横断的な学び」というような言葉に対して、「文科省からおりてきたものだからとりあえず従わなければいけない」という程度にしか考えていなかった。しかし、現地での視察を通し、グローバル化や IT 化が進む中で子どもたちはどのような能力を持たなければいけないのかを考えたときに、「答えのない問題に対し、よりよい答えに向かって考え続ける力」が必要であると実感した。その結果が、新カリキュラムに表れていると感じている。私自身の学校でも、多くの教員が興味を持って私の話に耳を傾け、参加してみたいと言ってくれた。

しかし、残念ながら JICA 北陸主催のこの研修は来年度で最後になると聞いている。(2020 年度より JICA 中部と共同実施、名古屋で開催)閉鎖的と言われている北陸だからこそ、多くの刺激をもらえる機会を大切にしていけるべきだと思う。そして、教員の意識が変わればより生徒の国際理解は深まると思う。この研修の継続または、この研修に変わるような研修の機会をこれから期待したい。

≫ 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス

後悔しないためにも万全の準備（モノ、体、気持ち）が必要だと感じた。

- ①英語の習得…基本的には英語を話せなくても研修は終えられるが、英語を少しでも勉強していけば会話がはずんだり、話の理解も深まったと思う。単語だけ並べるだけでも十分通じることが分かった。
- ②意見の交換…研修で設けられている振り返りの他に今回は毎晩自分たちだけでの振り返りも行った。ラフな形で行うからこそ、新しい視点でみることもできたと思う。私はみなさんの意見に感動することが多く、非常に勉強になったと感じている。
- ③防寒具…場所にもよるが、トランジットをしたニュージーランドとサモアでは気温差が非常に激しかった。事前に天気予報をしっかりと確認し準備していくべき。油断してパーカー1枚だけで挑んだ結果、凍えました。
- ④サプリメント…現地の食べものでお腹を壊すようなことはなかったが、日本とは違う食事を続ける事で栄養の偏りができた。帰国後はビタミン不足で風邪をひいてしまったので、ビタミンのサプリメントなどを毎日摂取するといい。
- ⑤動画の撮影…写真で残すことも良いが、動画であればより状況が伝わっていいと思った。日本に戻ってから動画をもっと残しておけばよかったと後悔している。

国際経済の動向と日本の役割

氏 名	土井 聡	学 校 名	富山県立富山中部高等学校		
担当教科	現代社会・地理 B	実践教科	現代社会		
時 間 数	4	対象学年	第 1 学年	人 数	40 名

実施概要

01 | 単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

ODA と国際協力 サモア独立国を例として

SDGs を理解することによって、世界的課題を他人事ではなく、自分事として考えることができる。国際協力における、先進国や国際機関による経済支援を中心とする考え方と、発展途上国の自助努力を中心とする考え方、双方を理解する。そして、発展途上国の経済的な自立・持続的発展と先進国の協力の在り方、両方を考察する。

02 | 単元の評価 規 準

(ア) 関心・意欲・態度	サモア独立国の具体例を通して発展途上国の現状に関心をもち、SDGs における先進国、発展途上国双方の課題について解決策を積極的に考えようとしている。
(イ) 思考・判断・表現	他者との意見交換（ペアワークやグループワーク）や発表を通し、国際協力の在り方を広く考察する。事象の本質や人間としての在り方、生き方も考察する。様々な立場や考え方を理解した上で適正に判断し、そこからさらにテーマを深く探究していく。
(ウ) 技能	客観的な情報や、映像、画像などから、サモアの現状や課題、有効な支援策などを、主体的に読み取ることができる。また、他者の意見をよく聞くことによって、自分やグループの意見を深めることができる。
(エ) 知識・理解	サモアで活動する青年海外協力隊員の任務や支援の実態を知ることによって、「地球規模で考え、地域で行動する」という思考方法が理解できたか。

03 | 単元設定の理由

新学習指導要領の「公共」には、「よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述すること。」とある。国際理解教育や開発教育においては、まずは生徒が現実や事実を知り、その上で考えることが重要である。グループワークやペアワークを通して他者の意見に耳を傾け協働する。また、様々な事象を伝える客観的な指標を用いて内容を多面的に分析する。そこで生まれる様々な思考や判断をメンバーで共有し吟味することにより、多様性への理解や寛容さが深まると考えている。地球的課題を解決するには、また、様々な事象や課題を他人事ではなく、自分事として捉えることが重要であることから、今回のサモアを中心とした題材は、格好のネタになると考える。

私たち日本とサモアの自然的、文化的、歴史的差異を理解するだけでなく、生徒たちにはその等質性にも気付いてほしい。自宅周辺にある動植物で、食事を完結させ、自給自足の生活をいとも容易く行うことができるサモア人と、経済的に恵まれ、冷蔵庫を開ければ、食うに困らないほどの食物を得ることができる日本の高校生がいるとすれば、何が差異で、等質なのか

ということ、ごく自然に考えることができるのではないかな。

今回は知識構成型のジグソー学習を行う。各分野のエキスパートとして自分の担当分野への理解を深め、主張するだけでなく他者の意見をよく聞き合意形成を進める。協働活動を通してサモアへの支援策を他者として考えてほしい。

生徒たちには、このように多様なグローバル社会を、逞しく、力強く生きるために、授業や様々な学校生活を通して、よく学び、よく考えて、自分の生き方や人間としての在り方を創造してほしいと願っている。

04 | 展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	- ODA や国際協力の現状について基礎知識を理解する。 - SDGs について、採択された歴史的経緯を理解し、先進国と途上国双方が達成すべき目標であることを理解する。	- 年表や経済指標、統計を読み取り、客観的な情報から ODA や国際協力の実情を理解する。 - SDGs について理解するとともに、日本が達成に程遠いとされている目標について、DG Index and Dashboards Report 2017 で確認し、日本の現状を考える。 - 先進国による、発展途上国への支援はなぜ必要かについて、考える。	- 教科書（実教出版） - 資料集（とうほう） - 外務省 HP - データブック・オプ・ザ・ワールド 2018 - SDG Index and Dashboards Report 2017 - ワークシート
2	- サモア独立国について、JICA 北陸の教師海外研修の内容をもとに、現状について学ぶ。自然環境、歴史、社会、教育、文化について学び、理解する。 - 青年海外協力隊員の活動について理解する。	- 知識構成型のジグソー学習を行う。 - 各エキスパート（環境防災・教育・産業経済・医療福祉の4分野）によるグループワークを行う。 - 動画や写真などの研修報告、書籍や HP などの客観的な情報を基にサモアの現状を理解する。 - 読み込んだ資料や学習した内容について意見交換し、互いの理解を深めていく。 - 限られた情報ではあるが、サモアの現状を理解し、有効な支援策をグループ毎に考える。	- データブック・オプ・ザ・ワールド 2018 - 地図帳 - 飯森文平著『農村経済と伝統儀礼』農林統計出版 - 外務省 HP など - 研修中に撮影した写真、動画など - ワークシート
3 本時	サモア独立国への、有効な支援策を考える。「支援は必要ない」と判断した場合は、その理由を考える。 - 支援のあり方について考える。 - 途上国における諸課題やそれに対する支援策を、他人事ではなく、自分事として捉えることができる。	- 知識構成型のジグソー学習を行う。 - 各エキスパートが1人ずつの、4人グループによるグループワークを行う。 - サモアに関する客観的な情報や、前時までの授業内容から、SDGs の観点において、有効な支援策（「どのように」を重点的に）をグループ内で討論し、発表する。（1グループ1分のプレゼン） - 他者、他のグループの意見をよく聞き、自グループの内容を深める。 - 再度グループメンバーに意見をフィードバックし、理解を深める。 - 支援の「KEY SENTENCE」、 「KEY WORD」について話し合い、発表する。 「KEY WORD」はスマートフォンを利用して、グループフォームに入力する。 - グループディスカッションによる思考、発表とワークシート記入による言語活動に重きを置く。	- データブック・オプ・ザ・ワールド 2018 - 地図帳 - 飯森文平著『農村経済と伝統儀礼』農林統計出版 - 外務省 HP など - 研修中に撮影した写真、動画など - ワークシート - スマートフォン（各班1台）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
4	- JICA の事業について理解する。 - 中でも「民間連携事業」にフォーカスし、富山の企業（主として中小企業）がサモアで事業活動を行う可能性を考える。	- JICA の活動について、インターネットなどを用いて、理解する。 - 富山県の企業を調べ、事業がサモアへの支援に有効であると考えられるものを選び、発表する。 - 有効な支援のあり方について考える。	- JICA 北陸 HP - 富山県商工労働部労働政策課『富山県 魅力ある中小企業ガイド』 - ワークシート

05 | 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	前時の振り返り	- 知識構成型のジグソー学習を行う。 - グループワークの概要を説明する。SDGsの観点を重視する。	
展開1 (25分)	サモアにはどのような支援が有効か？ - グループワーク(各4人)ジグソー活動開始 各分野のエキスパートが1人ずつ集まり、4人グループを形成する。 - 各エキスパートによる説明やディスカッションを行う。 - 代表者が発表する。 (各班1分間)(プレゼンテーション)	- グループワーク中はファシリテーターとして巡回する。 - ディスカッションが停滞している場合は、発言を促す。	ワークシート
展開2 (15分)	- クロストークを行う。 - 各班の代表者による「Key sentence」の発表(プレゼンテーション)	画用紙に書いた「Key sentence」を掲示する。	色画用紙(掲示用)ワークシート
まとめ (10分)	改めて、問う。サモアにはどのような支援が有効か？ - 各班で「Key word」を考える。 - 代表者がスマートフォンを利用し、Google form に書き込む。 - ディスカッション、プレゼンテーションの振り返りを行う。	- 印象的な発表や講評について、SDGsの観点から言及、評価する。 - 支援は、上から目線になっているだけでは効果を発揮せず、支援先の自助努力、自立を促すもので、持続可能なものが有効であることを引き出したい。	ワークシート Google form

≫ 授業実践の様子



ジグソー学習
(各分野のエキスパートが1人ずつ、4人グループを形成)

06 | 本時の振り返り

前時のエキスパート学習後には、インターネットや書籍を通して、テーマに対する理解を深めようとする生徒が多く、学級全体の意欲的な姿勢が見られた。「Key sentence」の発表は少し戸惑っていたようだったことから、むしろ、その後の「Key word」を取り上げ、再度クロストークを行うことにしていた方が、より効果的ではなかったかと反省している。

07 | 単元を通した児童生徒の反応 / 変化

学習当初は、物資や資金による支援を中心に考えていたようだが、資料を読み込んだり、議論、思考したことで、「サモアらしさを大切に」、「自立支援」、「支援慣れからの脱却」、「持続可能」などのkey wordが導き出された。

≫ 単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲

一般的に必要な資金やインフラなどの社会資本の提供、といった与えるタイプの支援策を考えるだけでなく、「サモアらしさを認める」、「自立を支援する」、「日本だからできること」、「日本人しかできないこと」、「日本人がやるべきこと」などに思考が及んだ。

≫ 途上国・異文化への意識の変容について

(授業前)

対象国のサモアはもちろん、発展途上国全般についての知識も少なく、関心も低かった。支援や支援の実態、経済協力について考えても、どちらかというと他人事という意識が大勢を占めていた。様々な専門用語についても、テストのために記憶することに主眼があり、それらを基に国際社会への理解を深めたり、思考したりするためのツールにすることはできなかった。

(授業後)

知識がないと、思考や議論ができないということを実感した生徒は多かった。途上国の現状や支援の実態を知ること、知ろうとすることが大切であることを、より強く意識するようになったのではないだろうか。他人事ではなく、自分事として捉えた生徒は、「発展途上国は長い人生における私たち若者と同じではないか。だとしたらどのような支援が有効か。」という視点で考えていた。

≫ 1. 苦労した点

資料の精選は、難しい。客観的であることは重要であるが、数値データや基礎データだけでは、実態や民族性、文化的差異は伝わりにくい。主観的な資料（ブログ）ばかりでは、著作者の意思があることに加え時には偏見が入っている場合もあるので実態とかけ離れてしまうリスクがある。ジグソー活動においては、各エキスパートが、同程度の適切な資料を基に議論することが重要ではあるが、何よりもそれらを精選することが難しい。

≫ 2. 改善点

- ・本時の実践において、key sentence と Key word の発表は、時間も短く、戸惑っていた。Key word だけに絞って、もう一度クロストークを入れれば、テーマに対して、より深い理解ができたのではないか。
- ・各エキスパートの資料が多すぎたかもしれない。資料を精選して、グループディスカッション、クロストークに時間を割くべきだった。

≫ 3. 成果が出た点

できるだけ教師が話す場面を少なくしたが、それでも生徒が発表した Key word には、「持続可能」、「支援慣れ」、「サモアらしさ」、「自立」、「人材育成」、「協調」、「sustainable」など、私たち日本人が長期的に取り組むべき視点が、協働学習を通して自然に出てきた。それは大きな成果であった。Google form を使ったことも、抵抗なく取り組めたのではないか。

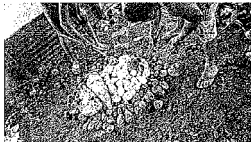
≫ 4. 担当クラス以外での実践・報告について（内容・対象人数）

- ・2018年10月
富山県高等学校教育研究会 地理部会で、本年度の JICA 教師海外研修について概要を説明するとともに、若手の先生方に今後の参加を勧めた。
対象人数：47 名
- ・2018年12月
富山中部高校の保護者向けの通信（相談室だより）にて、サモアにおける研修の概要、JICA 職員や協力隊員の活躍、現地の人々の優しさや幸福に関する意識などを伝えた。 対象人数：全校生徒 838 名、教職員 67 名
- ・2019年6月
全国地理教育研究会「地理の広場」140号に寄稿予定

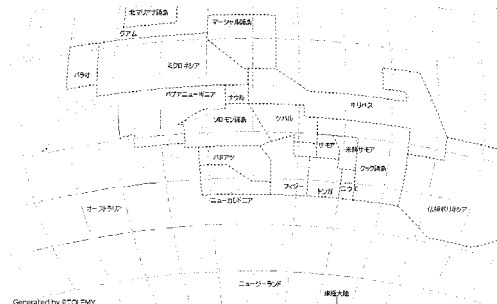
現代社会・国際理解

単元名 国際経済の動向と日本の役割

テーマ:ODAと国際協力
～サモア独立国への支援を例として～



1年5組 番 氏 名



Generated by PTOLNRY

サモア

401

現状 外交はニュージーランドとの自由連合関係が基本。太平洋諸島フォーラム(77)加盟国・地域との域内協力を推進。国連未加盟だが、WHO・FAO・UNESCOなどの国際機関に加盟。01年ニュージーランドとの共同声明で主権独立国家として外交を行うことを表明。04年12月総選挙によりマルライ首相が就任。10年11月の総選挙ではクック諸島が勝利し、プナ先輩が首相に就任した。日本の国家承認は11年3月。

経済 主要産業は農業・観光業・真珠の養殖。製造業は縫製で、油やしやノニジュースなどの果実加工・衣料品・手工芸品など。ニュージーランドやオーストラリアなどが主要援助国。近年、観光業(GDPの約7割)の成長で経済は回復したが、首都のあるラトンガ島と他島との経済格差は拡大。GDP成長率は15年5.5%。貿易収支は大幅な赤字だが、観光や海外からの送金で経常収支はプラス基調。物価上昇率は14年2.1%。

政体 立憲君主制(ニュージーランドとの自由連合国) 出生率¹⁾ 10.9%。死亡率²⁾ 5.4%。乳児死亡率³⁾ 6.9%。合計特殊出生率⁴⁾ 2.21 平均寿命⁵⁾ 76.0歳(男74.0・女78.0) 識字率⁶⁾ 99.0%

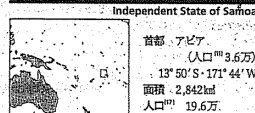
年齢別人口構成⁷⁾ 年少21.1%・生産66.7・老年12.2 産業別人口構成⁸⁾ 1次4.3%・2次11.6・3次84.1 人口密度⁹⁾ 73.6人/km² 都市人口率¹⁰⁾ 74.3% 国民総所得¹¹⁾ 2.9億ドル 1人当たり国民総所得¹²⁾ 14,119ドル 国内総生産成長率¹³⁾ 5.5%

言語 クック諸島マオリ語(公用語)・英語(公用語) 民族¹⁴⁾ クック諸島マオリ人(ポリネシア系) 87.8%・混血5.8%・その他6.5%

宗教¹⁵⁾ プロテスタント 69.6% (クック諸島キリスト教会55.9)・カトリック 16.8・モルモン教 3.8 土地利用¹⁶⁾ 農地(耕地0.2万ha(6.3%)・うち樹園地0.1万)・森林1.5万(62.9) 農林水産業¹⁷⁾ (農業従事者2,000・農業従事者1人当たり農地1.0ha)¹⁸⁾

かんしよ 301t・キャッサバ869t・ココナツ1,738・トマ284・オレンジ類21・レモンとライム1・グレープフルーツ13・バナナ15・バナナ24・馬305頭・牛130・豚3.2万頭・山羊1,010頭・鶏2.0万羽・鶏卵36t・木材3,000m³・漁獲量4,103t 工業¹⁹⁾ 牛肉3t・豚肉55t・山羊肉2・鶏肉20・牛皮1²⁰⁾ 発電量²¹⁾ 3,200万kWh(うち100%) 輸出²²⁾ 1,400万ドル(食料品19.7%・原材料と燃料5.3・工業製品3.0・その他72.0)²³⁾ ジュース16.0%。サゴ3.5%・魚介類3.7%・天然真珠2.2%・真珠製品0.4% (日本58.8%・中国14.7・アメリカ6.0・ニュージーランド4.4・ベトナム3.9%) 輸入²⁴⁾ 1億1,000万ドル(食料品21.5%・原材料と燃料15.2・工業製品18.3・その他45.0%) 石油製品

サモア独立国



地形 サモア諸島のうち、西経171度線より西側の9島からなる。共に火山島であるウポロ(1,075m)・サヴァイイ(1,650m) 両島を主島としている。海岸には珊瑚礁が発達している。

気候 海洋性の熱帯気候(Af)をもち、5～11月は比較的にのびやすいが、11～4月は雨季となる。雨量は年間2,500mm前後。

アピア 25.9℃(1月) 25.8℃(7月) 年平均気温26.5℃ 年降水量1,955.0mm

歴史 1722年オランダ人航海家ヤコブ・ロッグフェーンがサモア諸島を発見。1768年フランス人ブーゲンヴィルが上陸。1899年アメリカ・ドイツ・英国の共同保護領に。1899年王位が廃止され、1899年ドイツがサモアを領有し、アメリカが東サモアを領有。1919年ニュージーランドの国際連盟委任統治領。1945年同盟国の連合軍に降参。1962年独立。1976年国連加盟。1997年国名を「西サモア」から「サモア独立国」に変更。現状 旧宗主国のニュージーランドと友好協定を締結。オーストラリアとの関係も深い。太平洋諸島フォーラム(77)・英連邦加盟。軍隊はない。有事の際にはニュージーランドが支援する。1991年から普通選挙

サモア

462

ソロモン諸島

を実施。定数49人の一院制の議会。伝統的なマタイ(村落の首長)制度が残り、47議席はマタイの称号を持つ者しか立候補できない。非サモア人には2議席が割り当てられている。南太平洋非核条約に調印。01年、06年、11年に続き、16年3月の総選挙で与党の人権推進連党が勝利(47議席を獲得)。1998年就任したトゥイラエエ首相も再任された。

経済 農業と沿岸漁業が主要産業。消費財を輸入にたよるため貿易収支は常に赤字。出稼ぎ労働者からの送金、観光収入などで赤字を埋めている。経済成長率は09年9月のサモア沖大地震・津波の影響で観光収入が減少、マツス5.5%と悪化。12年12月に暴落したサクロで甚大な被害を受けた。15年1.6%、16年3.0%。消費者物価上昇率は15年1.9%、16年0.1%。

政体 選挙により国家元首を選出制度 出生率¹⁾ 25.1%。死亡率²⁾ 5.3%。乳児死亡率³⁾ 15%。合計特殊出生率⁴⁾ 4.03 平均寿命⁵⁾ 73.8歳(男70.7・女77.0) 識字率⁶⁾ 99.0% (男98.9%・女99.1%) 年齢別人口構成⁷⁾ 年少31.4%・生産62.9・老年5.7 産業別人口構成⁸⁾ 1次5.7%・2次14.3・3次80.0 人口密度⁹⁾ 69.1人/km² 都市人口率¹⁰⁾ 19.3% 国民総所得¹¹⁾ 7.6億ドル 1人当たり国民総所得¹²⁾ 3,930ドル 国内総生産成長率¹³⁾ 3.0%

言語 サモア語(公用語)・英語(公用語) 民族¹⁴⁾ サモア人(ポリネシア系) 92.6%・ヨーロッパ系とポリネシア系の混血7.0・ヨーロッパ系 宗教¹⁵⁾ キリスト教98.3% (プロテスタント59.9・カトリック19.6など)

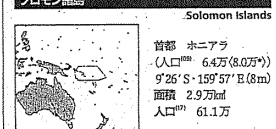
土地利用¹⁶⁾ 農地(耕地3.0万ha(10.6%)・うち樹園地2.2万・牧場と牧草地0.5万(1.8))・森林17万(60.4) 農林水産業¹⁷⁾ (農業従事者1.8万・農業従事者1人当たり農地1.9ha)¹⁸⁾

キャッサバ(424t・ヤムいも3,190・タロイも2,0万t・ココナツ18・バナナ12万4,422t・バナナ2.1万t・カカオ豆484t・葉たばこ212・馬1,900頭・牛3,0万頭・豚20・鶏62万羽・牛乳1,490t・鶏卵399・蜂蜜195・木材7.6万m³・漁獲量7,501t 工業¹⁹⁾ コブラ12万m³・ビール600万²⁰⁾・牛肉1,118・豚肉4,167・鶏肉617・牛皮211m²・製材1,000万m² 発電量²¹⁾ 1.2億kWh(水力29.5%・火力70.5) 輸出²²⁾ 5,300万ドル(食料品43.4%・原材料と燃料26.1・工業製品30.5)機械類28.3%・石油製品25.3・まぐろとかつお19.3・ジュース5.1・ビール4.3 (オーストラリア42.1%・アメリカ領サモア18.3・ニュージーランド15.0・アメリカ5.3・日本3.8) 輸入²³⁾ 3億3,400万ドル(食料品26.9%・原材料と燃料17.4・工業製品55.7)石油製品14.1%・機械類12.2・内服7.2・製薬6.2・金属製品5.0(ニュージーランド

26.0%・シンガポール15.5・中国14.8・アメリカ10.1・オーストラリア9.8) 日本の対サモア貿易²⁴⁾ 輸出16億1,361万円(乗用車33.9%・バスとトラック20.3・電気機器19.7・一般機械8.3・プラスチック製品2.7) 輸入9,490万円(まぐろ67.8%・果実22.7・カカオ豆4.8・発酵酒1.8・プラスチック製品1.6) 貿易依存度²⁵⁾ 輸出6.6%・輸入41.5% 通貨 サモア・カラ(1現地通貨=46.85円 17.7) 外貨準備高²⁶⁾ 9,931万ドル 観光客²⁷⁾ 13万人 観光収入²⁸⁾ 1.7億ドル 航空輸送量²⁹⁾ 飛行機600km²・旅客3.4億人キロ³⁰⁾・貨物1.8万トンキロ 自動車保有台数³¹⁾ 1.1万台(うち乗用車8,500台・乗用車1台当たり22人) 登録自動車保有率³²⁾ 11隻(6,945総トン) 固定電話契約数³³⁾ 7,192件(百人当たり3.7件) 携帯電話契約数³⁴⁾ 13万件(百人当たり69.2件) インターネット利用者率³⁵⁾ 29.4%

消費 エネルギー(石油換算)³⁶⁾ 8.2万t(液体燃料7.9万トン・電力0.3)(1人当たり437kg) 穀物供給³⁷⁾ 1.3万t(1人当たり69kg)・砂糖³⁸⁾ 9,000t(1人当たり10kg)・紙と紙張³⁹⁾ 1,000t(1人当たり6kg)・肥料⁴⁰⁾ (窒素14t・りん酸9・カリ3) 日系現地法人数⁴¹⁾ 3 在留邦人数⁴²⁾ 総数89(長期76・永住13) 大使館 〒104-0042 東京都中央区入船2-7-4 観光ビザ3F ☎03-6228-3692

ソロモン諸島



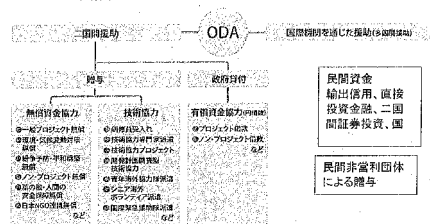
地形 オーストラリアの北東、パプアニューギニアの東方に位置している。ガダルカナル島、サンタイサベル島、ニュージョージア島、サンタクルーズ諸島など大小100以上の島々からなる。

気候 全土が熱帯気候(Af)で年中高温。南東貿易風が卓越する4～11月はしづやすいが、赤道からの北西風が吹く12～3月は気温が上昇し蒸し暑くなる。降水量は年間2,000～3,000mm程度。

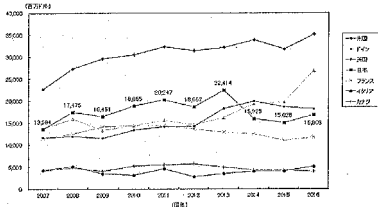
ホニアラ 27.0℃(1月) 26.0℃(7月) 年平均気温26.6℃ 年降水量1,923.3mm

歴史 1568年スペイン人メンダナが上陸。ソロモン諸島と命名。1893年に英国が有ソロモン諸島を領有宣

* ODAについて…政府資金によるもの

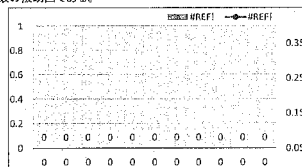


* ODA実績推移



* 日本の援助の歴史

1950年代以降は、OECD(経済協力開発機構)のDAC(開発援助委員会)加盟国として援助国に転換した。財政悪化などから2000年以降のODA予算は減少傾向にあるが、今なお、世界有数の援助国である。



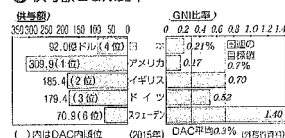
* 日本の援助はアジアを重視しているが、アジア諸国の経済発展に伴い、現在は中東、アフリカが増加している。フランスやイギリスは旧植民地のアフリカへの援助が多い。

③ 二国間ODAの地域別内訳



* 日本の供与額は高いが、経済規模に対する比率、つまりは援助額をGNI比率で表すと、DAC諸国における平均値を下回る。援助の形態は、かつてはアジア諸国への円借款(政府貸し付け)が多く、贈与比率が高かったが、近年アフリカ諸国への援助が増加し、贈与比率が高くなってきている。

④ 供与額とGNI比率



⑤ 贈与比率とアンタイド比率



【調べてみよう】

人間開発指数・開発協力大綱・絶対的貧困層・NGO・フェアトレード・マイクロクレジット・BOP・ビジネス・ボトム・サハラ

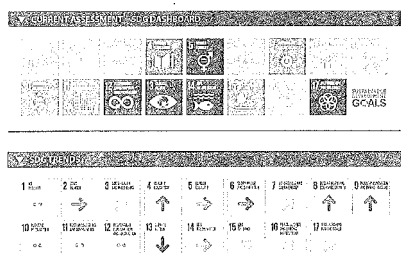
SDGsとは



外務省HPより

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

SDG Index and Dashboards Report 2018 * SDGsに関する日本の達成状況の評価

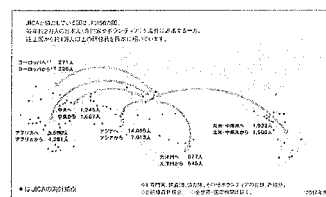


JICAとは



独立行政法人 国際協力機構

2008年10月1日、JICAは日本の国際協力を包括的に実施する機関として新たなスタートを切り、これを機に、新たな体制と組織文化の創造のために、シンボルデザインを改定しました。

開発途上国と日本の人々を
むすぶJICA

JICAは、日本の国際協力支援(政府開発援助)を実施する機関です。上下水道や道路などの人々の生活を支える基礎的建設に必要なお金を提供したり、高度な専門知識を持つ日本人を開発途上国に派遣したり、外国から人々を日本に招いて観光や投資などの機会を創出します。また、海外で生活や学業をしない、途上国で暮らしている国には、それらの国境をつくらぬためのお話を提供します。国境を越え、経済・文化や価値観を深み合い、互いに、世界の平和の礎を築いていきました。未来の平和は、国境を越えてつくられたのです。



こうした中で、日本の太平洋島嶼外交に対して求められるのは、いかなることであろうか。日本が戦前からミクロネシア地域を中心に築き上げてきた歴史的な関係や、戦後のODAによる経済支援や人的な交流関係は、豪州・ニュージーランド・米国などの島嶼国にとっての旧宗主国との特別な関係とは異なる。同じ目録で語り合えるという「イコール・パートナーシップ」として確立されてきた。とりわけ、「太平洋・島サミット」は太平洋島嶼国の主要ドナー国の中で、島嶼国の首脳レベルがすべて揃い、日本の総理が共同議長を務め協議を行う、唯一の機会である。こうしたこれまで築き上げた太平洋島嶼国と日本の関係を維持発展させながら、旧来のドナー国とも、新興のドナー国とも異なる、日本のポジションを明確に示していくことが重要であり、それが次の第7回太平洋・島サミットに向けた最大の課題と言えるだろう。

中国・台湾

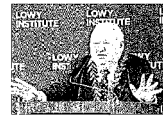
中国、サモアの港湾再開発に融資が 軍事利用への懸念

2018年11月27日 15:47

【シドニー＝松本史】豪紙オーストラリアンは27日、南太平洋の島国サモアが港湾再開発を巡り、中国と融資交渉をしていると報じた。サモアのツイエバ首相は4月、港の再開発計画を表明したが、資金源は明らかになっていなかった。南シナ海など海洋進出を進める中国が今後、サモアの港を軍事利用する懸念も出てい

る。

サモアのロバオ農漁・水産相が、同紙に対して中国との交渉を認めた。国際通貨基金（IMF）によるとサモアの対外債務は国内総生産（GDP）比50%前後で推移している。スリランカなど、債務返済に窮して港湾など基幹インフラを中国に譲り渡す「債務のツナ」に陥る事例も出ている。同紙は「中国は（サモアに軍事拠点を築けば）豪州を威圧することができる」との専門家の見方を紹介している。



サモアのツイエバ首相

本サービスに関する知的所有権その他の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記号・写真等の複製・転載・転載を禁じます。

NIKKEI No reproduction without permission.

サモアにおける島外への労働力移動と移住の経緯

表3 地域別労働力移動（2001年、2006年）

地域	AAA (A)		B/C (B)		C/D (C)		D/E (D)		E/F (E)	
	2001年	2006年	2001年	2006年	2001年	2006年	2001年	2006年	2001年	2006年
AAA	27,272	27,768	6,843	11,455	156	6,618	1,947	8,567	17.1	18.4
B/C	44,353	66,422	1,659	18,429	3,412	8,481	2,629	7,658	4.2	17.4
D/E	34,233	43,715	3,559	6,341	3,336	17,368	—	7,529	0.1	6.9
E/F	38,761	40,140	5,714	7,439	6,231	18,438	1,591	8,628	3.2	1.9
合計	—	—	212	42	1,824	3,901	—	4,197	—	—

(出典) GOVERNMENT OF SAMOA & Australian Government, 2001、49、2016、56、より改算。

(注) 地域別労働力移動の単位は人。

AAA: アピタ・アピタ・アピタ、B/C: ノースウェスト・ウヰル、D/E: レスト・オブ・ウヰル、E/F: サヴァイ。

IV. 労働力移動と送金経済

サモアの社会は、一方で自給自足経済に依存しつつ、すでに貨幣経済が深く浸透している。その重要な契機となったのが海外への移民・市役と恒常的な送金であった。

(1) 労働力移動の現状

表3はサモアにおける労働力の地域別移動を、2001年と2006年の両年について示したものである。国内移動については、首都アピタとその周辺地域に向けて人口が流入しているのが分かる。2006年のウヰル島（本島）内のアピタ・アピタ・アピタ（AAA）の増減率は18.4%に対し、ノースウェスト・ウヰル（B/C）が17.1%、レスト・オブ・ウヰル（D/E）が6.9%と、本島内でも首都から離れたほど流入率は低く、サヴァイ島は-20.0%と流出する一方で、海外移動では、流出数が流入数を大きく上回っている。海外への流出者総数は2006年には5,091人（内流出1,497人）を費している。人口総数（約18万人）に対して年間流出率は2%に過ぎないが、すでに海外で生活するサモア人は現在約30万人にも達しており、本国人口を大きく上回っている。ニュージーランドとアメリカに約15万人ずつ、オーストラリアに約4万人が居住している。

表4は、ニュージーランドにおける主要外国人居住者数を示している。2006年時点でニュージーランドに生活する外国人265,871人のうち、サモア人が131,093人とほぼ半数を占めている。サモアからニュージーランドへの大規模な労働力移動

表4 ニュージーランド内の移住者人口

年	移住者人口	サモア人（人）
2001	141,000	—
2006	251,000	131,093 (52.2%)

(出典) Statistics New Zealand Cook & Sainsbury Pacific Profile 2006 Overview.

は、第二次大戦後のニュージーランドでの経済発展が背景となり、サモアからの若年層の単身出稼ぎが始まった。しかし、西サモアが独立した1962年頃にはニュージーランド経済に陥りが見え始め、サモアからニュージーランドへの労働力移動には制限が課せられるようになった。ただし、「移民計画」により毎年1,000人程度の移民枠は設けられた。また、商業を営むに移民する「町営移民」や「連帯移民」などの移動形態も継続し、サモアからニュージーランドへの労働力移動の重要なパイプとなった。

このように同連帯移民制度以来のニュージーランドへの移民の背景として、安価なサモア労働力に対する需要の減りが主因となり、一時的にサモア国内での生活水準の向上や労働教育機会の獲得といったフラッシュポイントを経て、大規模な移民を抑制してきた。

(2) 海外移民からの送金の現状

サモアは島嶼地域の7カ国における近年の送金額の推移を示すと（表5）、サモアへの送金額は1995年の4,100万US\$から2006年には1億3,470万US\$まで増加している。これはフィジーに次

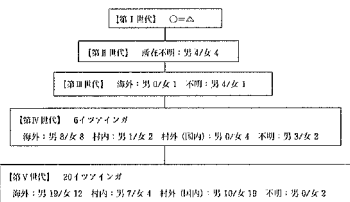
54

図3 送金額（US\$ million）の推移

	2001	2002	2003	2004	2005
アジア	18.0 (1.5)	19.0 (1.4)	18.2 (1.4)	17.8 (1.1)	17.8 (1.1)
オセアニア	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)
ヨーロッパ	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)
アメリカ	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)
その他	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)	1.0 (0.0)
合計	21.0 (1.5)	22.0 (1.6)	21.2 (1.4)	20.8 (1.1)	20.8 (1.1)

(出典) Asian Development Bank, 2007、217頁。

(注) : 内は100万US\$に相当する送金額の割合を示している。



≫ 1. 今回の研修参加に際し、特に主眼をおいた点

1950年代から1960年代にかけて、アジアやアフリカを中心に、多くの独立国が誕生した。それらの多くは発展途上国であり、日本をはじめとする世界の先進国がODA（政府開発援助）などの仕組みを使って発展途上国に対し支援を行ってきた。しかしながら、今なお貧困や飢餓は世界各地で見られており、経済格差は一向に縮まる気配を見せない。そのようなことから、従来の先進国の、途上国に対する支援は果たして適切であったのだろうか？支援や、その在り方が間違っていた可能性はないのだろうか？

サモアに対する支援の必要性やあり方について、見つめ、そしてそれが有効性や幸福追求に結びついているかどうか、考えたいと思った。

≫ 2. 視察を通して見つけた途上国の姿、疑問に思ったこと

JICA 北陸の教師海外研修における多彩なプログラムの中でも、その存在を際立たせているのはウポル島南部・アウファガ村でのホームステイであろう。1泊2日という短期間ではあったが、市街地や学校など、他の訪問先では見ることでできない、サモア人の「素顔」に触れることができた。それは非常に貴重な経験であった。

素顔に触れるということは、サモアン・ホスピタリティやシェア・ハッピーなどのような純粋無垢で疑う余地のないやさしい振る舞いを端緒として、サモア人の美しさに出会うということである。また、その反面、彼らの経済観念や思想信条など、生々しさ、リアルさ、生活観に直面することにも他ならない。JICA スタッフの言葉を借りれば、「支援慣れ」、「支援待ち」という姿勢は至る所で明白であるし、ホームステイ先でも、「次は何をくれるの」という態度も、ごく自然な姿として存在する。これらは、サモア人が悠久の歴史の中で育んできた美しさそのものであろう。または、先進国による支配や支援に対する受容や寛容さへの帰結と考えてよいのだろうか。

≫ 3. 研修を通して、自身の成長に繋がったこと、子供達に特に伝えたいこと

発展途上国支援について考えることは、日常の教育活動において、若者の自立支援を考えることと等質性が高いということとを理解した。国際理解教育を行う際には、文化間の差異によるカルチャーショックを強調しがちだが、その等質性についても生徒と協働で考えることができると良い。それが、他人事ではなく自分事として考えることの原点となりうるのではないか。

「サモアは変わらないでほしい」、「昔ながらの文化を保ち続けてほしい」という視点でサモアを支援するとすれば、それは我々先進国の人間のわがままであるという考えに至った。我々日本人も、第2次世界大戦からの復興や高度経済成長、バブル経済などを経験する中で、失ってしまったもの、残してきたものがある。それらの取捨選択は日本人が決めてきたことであり、求めてきたものである。サモアにとっても、キリスト教への信仰心やマタイ制度などが歴史的発展過程における様々な環境の変化などによって翻弄されてきたと思われる。都市部はもちろん、農村であっても、成人した若者のほとんどはスマートフォンを使いこなし、フェイスブックやブルー투ースの機能を楽しんでいる。彼らが物質的な豊かさを求める姿勢を、否定することはできない。「大切なもの、残すべきものはサモア人が決める」、ということを忘れてはならないということである。ただし、美しい環境を破壊するような、過度な成長を求めすぎることや、経済合理性のみを追求することによって表面化する軋轢や喪失については、私たち「先人」の、後悔に基づく支援や助言のありかたは、普遍的であり、持続可能なものとして妥当であると言えよう。

≫ 4. 今年度だけでなく、今後の国際理解教育活動への活用について（構想）

4年後には高等学校でも新学習指導要領が実施される。新科目「地理総合」は、従来の選択地理とは違い、全国の高校生全員の必修科目となる。その中の3つの柱、「GIS」、「防災」、「ESD」のどれをとっても、今回のサモアでの研修は、地理総合の授業における格好のネタとなるであろう。様々なテーマでSDGsを意識した授業になることは論を待たないが、中でも持続可能性にフォーカスして授業を展開できるのではないだろうか。

また、同様に、新科目「公共」においても、グローバル社会における国際協力、支援のあり方について学ぶことは必須である。また本科目の中でも最重要となる主権者教育部分において、地球的課題解決におけるサモアの現状を考えることは、多様な思考や判断、発表や論述を基礎とした言語活動を行うことにつながる。このことから、既存の科目に取り入れていくことは国際理解教育を広める有効な手段であると考ええる。

現在所属するいくつかの学会（富山県高等学校教育研究会地理部会、全国地理教育研究会など）で、研修の成果を発表することになれば、国際協力や支援のあり方などについて、地理や公民の教師たちと、「大人のディスカッション」をすることにつながり、教員の意識啓発という面で有意義な取り組みになり得る。

≫ 5. 研修に関する全般的な所感

学校や教育行政だけでなく、医療、環境、科学、健康、文化など、多彩なプログラムが組まれており、常に私たち教育者の知的好奇心を満たしていただいた。とても感謝している。それらの内容は、一見教育に偏らないように見えるが、青年海外協力隊員や、現地の人々の真摯な姿勢を見るにつけ、すべからく教育の重要性が根底にあり、有機的に結びついているのだと考えることができた。私たちの日常行っている教育活動について再認識を促されるものであったと思うし、教育の普遍性や汎用性を、未来への可能性として、再認識することとなった。

≫ 6. JICA に対する要望・提言

一言でいうと、教師海外研修の事業を継続していただきたいということ。

今回の教師海外研修では、バラエティに富んだ年代、校種によって、互いに刺激し合うことができたし、ディスカッションをするにも適当な規模のグループであった。今後も、北陸地区の、若い教師に限ることなく、教育に情熱を傾ける者に、発展や活躍の場を与えていただければ幸いである。将来は、教育界においても、必要に応じて「学び直し」が必要とされることから、欧米のリカレント教育のような位置づけで、JICAの支援事業が、教育界で機能することを願う。

また、青年海外協力隊員や、JICAスタッフの方々に対する、セカンドキャリア支援を充実させてほしい。青年海外協力隊の経験者が、教師を志し、大学で教員免許を取得する際、または、国際理解教育をまなぶ大学院へ進学する際のスカラシップなどを充実させてはどうだろうか。教育に生きがいや情熱をもつということが前提であるが、富山県教育委員会などでは、一般的な社会人としての経験はもちろん、青年海外協力隊の経験者などは採用試験においてたいへん有利であるし、校種を問わず、新規採用の可能性が高いと思う。とかく国際理解教育というと「英語偏重」の学校がほとんどであるから、途上国支援など多様な視点をもつ教師の存在は、現在の教育現場においても貴重であるし、その存在は温かく迎えられと思う。

≫ 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス

仲間としての研修を通して、異校種の教師と一緒に、教育と改めて向き合う、願ってもない機会である。間違いなく言えることは、職場や教育委員会主催の義務的な研修では絶対に得ることができないことと説明できる。富山県高等学校教育研究会・地理部会では、ぜひとも勧めてみたい。

また、今回のような秀逸なプログラムを考慮した上で、年代や校種、専門教科などを問わず、様々な分野の教師がチャレンジすべきではないか。高校教育ということ言えば、工業科で機械や土木を担当する教師、商業科でマーケティングやビジネスを担当する教師に勧めてみたい。専門学科の教師の知識や経験は途上国の現状にも、よく適合するのではないだろうか。